

畿央大学 大学院

入学案内・募集要項 2026

KIO UNIVERSITY
GRADUATE SCHOOL

Graduate School of Health Sciences

健康科学研究科
健康科学専攻

修士課程 2年

生命医科学分野
リハビリテーション学分野
看護学分野
健康栄養学分野
人間環境学分野
ライフテクノロジー（生活支援技術）学分野

博士後期課程 3年

健康生命科学分野
健康支援科学分野
ライフテクノロジー（生活支援技術）学分野

Graduate School of Education

教育学研究科
教育実践学専攻

修士課程 2年

教育実践学分野
発達支援教育分野


やさしさを
「チカラ」に変える。



畿央大学大学院で 仕事と研究を両立。

INDEX

● 健康科学研究科 健康科学専攻 P.03

修士課程 2年 P.05

生命医科学分野／リハビリテーション学分野／看護学分野／健康栄養学分野／人間環境学分野／ライフテクノロジー(生活支援技術)学分野

博士後期課程 3年 P.07

健康生命科学分野／健康支援科学分野／ライフテクノロジー(生活支援技術)学分野

教員プロフィール P.09

● 教育学研究科 教育実践学専攻 P.13

修士課程 2年 P.15

教育実践学分野／発達支援教育分野

教員プロフィール P.17

● 募集要項 P.18

入学までの流れ・入学資格審査 P.18／修士課程募集要項 P.19／博士後期課程募集要項 P.20／出願共通事項 P.21／Q&A P.22

専門性を活かして、積極的な研究活動を行っています。

〔研究機関紹介〕

● 現代教育研究所(2012年4月開設)

現職教員の教育研究力向上の取り組みに関わり、学校及び社会全体の教育力向上をめざす。

● ニューロリハビリテーション研究センター(2013年4月開設)

脳科学に基づいた新しいリハビリテーションを研究し、研究と実践をつなぐプラットフォームの役割を担う。

● 看護実践研究センター(2019年4月開設)

看護分野の実践研究からケアの資質向上・スキルアップをめざし、地域住民の健康維持に寄与できるよう様々な取り組みを行う。

● 臨床細胞学研修センター(2019年4月開設)

がんの早期診断や治療に貢献できる実践的な細胞検査士を養成するとともに、細胞診断学や関連する臨床手技についての教育動画を国内外にオンライン配信しています。

NEWS

細胞検査士および臨床検査技師を対象に生命医科学分野修士課程履修者を募集。臨床検査技師で細胞検査士資格取得希望者は、臨床細胞学研修センター土日コース同時受講で、修士と細胞検査士のダブルライセンスが可能。

社会人に優しい時間割・研究環境

働きながら学びたい方のために、授業は平日夜間(18:00～)と土曜日に開講。研究施設・設備は休日を含め22時まで(一部は終日)利用可能。図書館は20時まで開館しており、電子ジャーナルなどの閲覧は24時間対応しています。実際に大学院生の9割以上が仕事と学びを両立しています。

● 開講科目表 (時間割例)

健康科学研究科 修士課程(1年次前期)

● 対面・オンライン併用授業

	6限 / 18:00～19:30	7限 / 19:40～21:10
月		
火		
水		
木	○美しく生きるための健康科学総合特論 必修	
金		○カウンセリング特論
	1限 / 9:00～10:30	2限 / 10:40～12:10
土		○健康科学特論Ⅲ(分子・栄養・遺伝子・生化学)

● オンライン授業

月	○人間工学特論
火	○健康科学特論Ⅰ(脳・神経・感覚・行動)
水	○健康増進医科学特論
木	
金	○健康科学特論Ⅴ

○共通科目 ※専門科目の演習・特論は、担当教員と打ち合わせの上、スケジュールを決定します。※上記の開講科目表は例です。年度によって変更となる場合があります。

教育学研究科 修士課程(1年次前期)

● 対面・オンライン併用授業

	6限 / 18:00～19:30	7限 / 19:40～21:10
月	○教育心理学特論	
火		
水		
木	○美しく生きるための教育学総合特論 必修	
金		
	2限 / 10:40～12:10	3限 / 13:00～14:30
土	○教育法制特論	○教育課題実践演習(対面のみ) 必修

● オンライン授業

月	●教育学特論Ⅱ(教育方法・技術)
火	
水	○教育学特論Ⅰ(哲学・思想・史) 必修
木	
金	○統計解析評価演習

○専門基礎科目 ●専門科目 ※研究指導を行う「演習Ⅰ・Ⅱ」および「特別研究Ⅰ・Ⅱ」は、担当教員と打ち合わせの上、スケジュールを決定します。

働きながら学べる履修環境

一部の講義はインターネットを通じてリアルタイム受講が可能で、自宅や職場でも教室と同じ環境で学べます。また、多くの授業ではオンデマンド教材が用意され、いつでもどこでも受講することが可能です。さらに、Microsoft Teams等を活用し、個別指導やグループディスカッションなどを実施。遠隔の学生にもきめ細やかな指導を行い、社会人学生の学びを保証しています。



院生実習費と 特別奨学金制度

修士課程は1名当たり年間最大10～20万円、博士後期課程は年間20万円の院生実習費を研究に使用できます。2回生以上で成績優秀かつ支援が必要な学生には特別奨学金(年間30～37.5万円)を給付。

教育訓練給付金 指定講座

健康科学研究科・教育学研究科の修士課程と博士後期課程は教育訓練給付金指定講座です。指定講座を修了し、申請を行った方に10万円を上限として支給されます。(詳細は学生支援センターまで)

2年間の学費で最大4年の 長期履修学生制度(修士課程)

長期履修学生制度を利用すれば、2年間の学費で履修年限を最大2年延長可能。仕事や家庭の事情で2年間の修了が難しい方や、新たな教員免許取得希望者も制度の対象となります。履修期間が3・4年でも学費の総額は変わらず、年数に応じて分割して支払います。入学後の計画変更も可能です。(P.22参照)

畿央大学大学院が求める学生像 (アドミッション・ポリシー)

健康科学もしくは教育学の各分野における高度な知識、技術等を体系的に修得し、他の専門職や関係者と連携する能力を備えて、課題解決への指導的役割を果たすことができる能力を身につけることを目標にしています。教育方法として、当該分野において活躍している社会人を大学院の学生として受け入れ教育を行なうために、インターネットによる授業の配信や夜間開講を行っています。求める人材は次のとおりです。

1. 自ら課題を設定して探求するための十分な基礎学力を備えており、専門分野で積極的な研究をおこなう意欲をもった者
2. 高度な実践力をもった専門職の職業人として、自律的に社会に貢献したいという態度を有している者
3. 専門領域の内容について、学士課程卒業相当(博士後期課程では修士課程修了相当)の知識および研究方法を身につけている者

研究科・課程毎の求める人材は次のとおりです。

健康科学研究科 修士課程

- 健康科学分野の活動において指導力を発揮するために、論理的思考評価、企画能力、表現能力をみがこうとする者
- 高度専門職業人、教育研究者として健康科学の実践の発展に貢献する意欲のある者
- 人々の尊厳と健康が保障される社会をつくるために倫理的な判断と行動ができる者

健康科学研究科 博士後期課程

- 健康科学分野にかかわる問題を探究・評価・分析・解決するために必要な学術課題を考究することのできる者
- 課程修了後は新たな学際的研究分野を開拓し、新しい学問を構築していける高い能力と意思を持つ者

教育学研究科 修士課程

- 教育に関わることへの使命感と熱意を持ち、学部教育の上に、さらに実践的指導力を身につけることをめざす者
- 経験に裏付けられた理論的知識と実践的知識を省察し、さらに高度な専門的能力、資質を探索しようとする者
- 学校・地域社会との連携のもと、教育をめぐる教科や発達・学習に関する現代的諸課題について、論理的に考察しようとする者



健康科学研究科

— 健康科学専攻

健康科学分野のリーダーを養成

世界に発信する独創的な研究を

畿央大学大学院健康科学研究科は、生命医科学、リハビリテーション、看護、健康栄養、人間環境、ライフテクノロジー（生活支援技術）を専門分野とする大学卒業生や、すでに資格を得てその分野で活躍している方々がより高い目標に向かって学修し、研究を行うことを目的に18年前に設置されました。本研究科修士課程ではこれらの職場でリーダーとなり、やがては後輩の指導に当たることができる人たちを育てようとしています。また、実務を経験して自分の持っている知識に不足を感じている方たち、新たな疑問を感じてその解決に取り組もうとしている方々も対象になります。さらに健康科学分野で高いレベルの研究を志す方を対象に博士後期課程が設置されています。既に376名の修士と52名の博士（健康科学）を世に送り出すことができました。博士論文は国際学術雑誌に掲載され、高く評価されたものです。長期的な研究テーマに取り組むための環境も整い、活発な研究活動が展開されています。教員は研究指導に十分な資質を有しているだけでなく、自らも熱心に研究に取り組み、世界レベルの成果をあげています。人間の健康増進を科学する健康科学という新しい学問領域の開拓をめざし畿央大学大学院は発展しつつあります。優れた教育研究環境を自己研鑽の場に役立ててください。

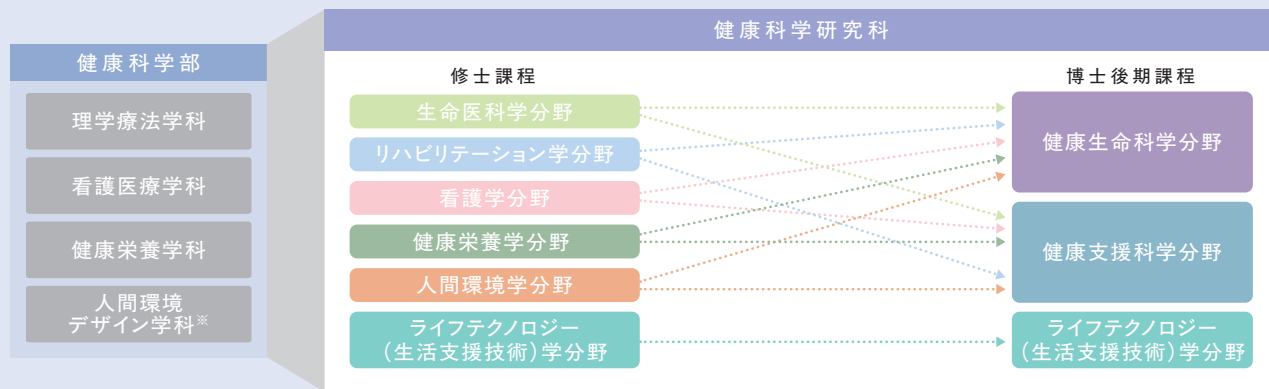


健康科学研究科長
植田 政嗣

大阪大学招聘教授
日本臨床細胞学会会長、
日本婦人科がん検診学会会長、
日本ヒト細胞学会会長を歴任

心豊かで健やかな人間生活を 追究する総合的取り組み

WHO(世界保健機構)は「健康とは単に病気でない、虚弱でないというだけでなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも健全な状態であること」と定義しています。つまり健康は医療だけでは実現せず、精神的な健康と、衣・食・住に代表される生活環境が整備されて初めて成立するものです。健康科学研究科の修士課程では生命医科学、リハビリテーション学、看護学、健康栄養学、人間環境学、ライフテクノロジー(生活支援技術)学の6つの分野から健康を追究します。また、博士後期課程においてはその6分野を一度合体させ、人間の健康維持・増進に必要な生体機能を研究する「健康生命科学分野」、人間の健康維持・増進を最も効果的に支援できる方法を研究する「健康支援科学分野」と生活の質向上のための使い勝手の良い技術を研究する「ライフテクノロジー(生活支援技術)学分野」をおき、健康に関する最先端から応用までの幅広い研究を行います。これらは全国の大学院でも初めての試みで、よりよい生活の質(QOL)の実現に貢献します。



※令和7年3月募集停止予定

● 特別研究指導教員一覧

● ……主担当可能

分 野		氏名・職位		参照P	分 野		氏名・職位		参照P	
修 士 課 程	生命医科学分野	生命医科学	植田 政嗣	● 教授	P09	看護学分野	看護関連科学	河野 由美	● 教授	P11
			祐實 泰子	● 教授	P09			岡 いくよ	● 教授	P11
			前原 佳代子	● 教授	P09			文 鐘聲	● 教授	P11
			森 康浩	● 准教授	P09			森岡 広美	● 教授	P11
	リハビリテーション学分野	神経 リハビリテーション学	森岡 周	● 教授	P09		看護実践学	山本 裕子	● 教授	P11
			信迫 悟志	● 教授	P09			紅林 佑介	● 准教授	P11
			松尾 篤	● 教授	P09			對中 百合	● 准教授	P11
			運動制御・運動障害学	岡田 洋平	● 教授			P09	田中 陽子	● 准教授
		疼痛 リハビリテーション学	冷水 誠	● 教授	P09	健康栄養学分野	食品機能科学	栢野 新市	● 教授	P11
			前岡 浩	● 教授	P09			松村 羊子	● 教授	P11
		呼吸 リハビリテーション学	大住 倫弘	● 准教授	P10		味覚と食嗜好の科学	米田 武志	● 准教授	P12
			田平 一行	● 教授	P10			運動・栄養生理学	永澤 健	● 教授
		物理医学系リハビリテーション学	宮本 直美	● 准教授	P10	食品栄養科学	村木 悦子		● 准教授	P12
			庄本 康治	● 教授	P10		人間環境学分野	環境デザイン学	東 実千代	● 教授
		地域系 リハビリテーション学	高取 克彦	● 教授	P10	林田 大作			● 教授	P12
			石垣 智也	● 准教授	P10	清水 裕子			● 准教授	P12
		運動器 リハビリテーション学	松本 大輔	● 准教授	P10	陳 建中			● 准教授	P12
			瓜谷 大輔	● 教授	P10	前川 歩			● 准教授	P12
		福本 貴彦	● 教授	P10	李 沅貞	● 准教授			P12	
		峯松 亮	● 教授	P10						
博 士 後 期 課 程	健康生命科学分野	生体機能科学	植田 政嗣	● 教授	P09	健康支援科学分野	健康 リハビリテーション科学	松尾 篤	● 教授	P09
			永澤 健	● 教授	P12			峯松 亮	● 教授	P10
			前原 佳代子	● 教授	P09			福本 貴彦	● 教授	P10
			祐實 泰子	● 教授	P09			大住 倫弘	● 准教授	P10
			森 康浩	● 准教授	P09			松本 大輔	● 准教授	P10
	健康支援科学分野	健康 リハビリテーション科学	森岡 周	● 教授	P09		健康生活環境科学	宮本 直美	● 准教授	P10
			瓜谷 大輔	● 教授	P10			栢野 新市	● 教授	P11
			岡田 洋平	● 教授	P09			松村 羊子	● 教授	P11
			庄本 康治	● 教授	P10			東 実千代	● 教授	P12
			高取 克彦	● 教授	P10			林田 大作	● 教授	P12
			田平 一行	● 教授	P10	ライフテクノロジー(生活支援技術)学分野	次世代型 生活支援技術学	冬木 正紀	● 准教授	P12
			信迫 悟志	● 教授	P09					
			冷水 誠	● 教授	P09					
			前岡 浩	● 教授	P09					

2年

健康科学研究科 健康科学専攻

修士課程

取得できる学位

- 健康科学研究科修士課程

修士(健康科学)(Master of Health Science)

よりハイレベルな
専門職業人をめざす

募集対象

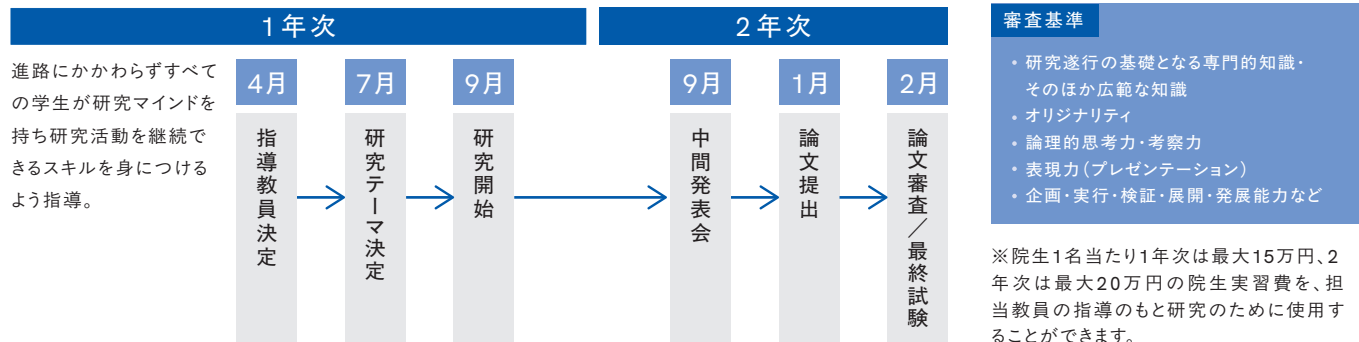
- 現場で働きながらスキルアップをめざす理学療法士、作業療法士、看護師、管理栄養士、建築士、細胞検査士、臨床検査技師等の専門的職業従事者
- 職場のリーダーや管理職をめざす専門的職業人
- それぞれの専門分野で教育者、研究者をめざす者

修了後の進路

- 大学院博士後期課程への進学
- 国公立の研究所、試験機関などの研究者
- 大学・短大・専修学校など教育機関の教員
- 企業での研究者
- 専門職の公務員
- 専門理学療法士
- 病院・施設などの職場におけるリーダー

修士課程

論文作成の流れ



履修モデル

		共通科目	単位	専門科目	単位	合計	学位論文
1年次	前期	美しく生きるための健康科学総合特論	必修 2	神経リハビリテーション学特論	2	16	研究テーマの決定 ↓ 基礎資料・データの 収集・分析
		健康科学特論Ⅰ(脳・神経・感覚・行動)	2				
		健康科学特論Ⅲ(分子・栄養・遺伝子・生化学)	2				
		カウンセリング特論	2				
		統計解析評価特論	2				
	後期	先端バイオサイエンス技術特論	2	—	4		
		健康科学特論Ⅳ(認知・学習・記憶・発達)	2				
2年次	前期	—	特別研究	必修 10	10	研究テーマに基づく研究・ 実験と学位論文の作成	
	後期	—					
合計		14(14)		16(16)		30	

※ 合計の欄の()内の数字は修了要件の単位数

修了要件および履修方法



共通科目から14単位以上、専門科目から16単位以上を修得し、本大学院が行う修士の論文審査および最終試験に合格することによって学位を取得することができます。

開設科目一覧

	科目名	単位	修了要件
共通科目	美しく生きるための健康科学総合特論 必修	2	7科目14単位
	健康科学特論Ⅰ(脳・神経・感覚・行動) 特色ある科目	2	
	健康科学特論Ⅱ(臓器・循環・代謝・運動)	2	
	健康科学特論Ⅲ(分子・栄養・遺伝子・生化学)	2	
	健康科学特論Ⅳ(認知・学習・記憶・発達)	2	
	健康科学特論Ⅴ(看護学・ヒューマンケア学等)	2	
	先端バイオサイエンス技術特論 特色ある科目	2	
	健康増進医科学特論	2	
	臨床・社会調査研究法特論	2	
	統計解析評価特論	2	
	ケアリング特論	2	
	カウンセリング特論	2	
	人間工学特論	2	
	環境科学特論	2	
	教育学特論Ⅰ(哲学・思想・史)	2	
	教育学特論Ⅱ(教育方法・技術)	2	

	科目区分	科目名	単位・修了要件
専門科目	生命医科学分野	生命医科学特論・演習	特論2単位 + 演習4単位 (※6単位)
	リハビリテーション学分野	神経リハビリテーション学特論・演習 (認知・行動・発達・高次機能/社会・コミュニケーション系)	
		運動制御・運動障害学特論・演習(運動制御/心理・学習系)	
		疼痛リハビリテーション学特論・演習(基礎/臨床系)	
		呼吸リハビリテーション学特論・演習	
		物理医学系リハビリテーション学特論・演習	
		地域系リハビリテーション学特論・演習	
	看護学分野	運動器リハビリテーション学特論・演習 (臨床/スポーツ/骨・関節系)	
		看護関連科学特論・演習(看護心理学/社会学/疫学・公衆衛生学)	
		看護実践学特論・演習(療養支援看護学/精神看護学/地域ヘルスプロモーション科学)	
	健康栄養学分野	食品機能科学特論・演習	
		味覚と食嗜好の科学特論・演習	
		運動・栄養生理学特論・演習	
		食品栄養科学特論・演習	
	人間環境学分野	環境デザイン学特論・演習	
		インターンシップA(学内)※	
		インターンシップB(学外)※	
	ライフテクノロジー (生活支援技術)学分野	次世代型生活支援技術学特論・演習	
	分野共通	特別研究 必修	特別研究の論文 審査および最終試験 合格で10単位

※インターンシップAもしくはBいずれかの単位を取得し、本研究科を修了することで、一級建築士登録資格に必要な実務経験2年のうちの1年とみなされます。

必修

美しく生きるための健康科学に取り組む

美しく生きるための 健康科学総合特論

健康への関心は高まる一方、なぜ健康でありたいのかということ忘れて、「健康な身体」自体が目標になりがちです。本研究科では健康をQOL(生活の質)に関連付け、よく生きる、美しく生きることを目標に掲げて、物質生活・精神生活・社会生活のトータルにおいて良好な状態を実現することが大切だと考えます。そこで脳科学、神経科学、栄養科学、人間環境学、教育学の各分野の研究者がチームを組み、QOLの観点から健康科学を有機的・総合的に再構成し、人間にとっての理想であり目標である「美しいライフデザイン」を追求する科目を設けました。これは、心豊かで健やかな人間生活をめざす総合的取り組みを進める本研究科の特色を象徴した科目であり、必修のコア科目として位置づけるものです。

特色ある科目

健康科学特論Ⅰ(脳・神経・感覚・行動)

健康の維持増進をはかる仕事に携わる者にとって、人体の仕組みや営みを知ることは最低限必要なことです。健康科学特論Ⅰでは、「脳・神経」、「感覚」、「行動」など、人の持つ動物性機能を体系的に、かつ統合的に把握することを目的とした授業を行います。すなわち、脳神経系の働きを生体膜、イオンチャネル、輸送体など分子、細胞レベルで理解させ、さらに進めて感覚受容、言語理解などシステムとしての理解へつなげます。最終的に、人間の行動の基礎を深く理解させることをめざします。

先端バイオサイエンス技術特論

健康科学の進歩のため、さまざまな先端バイオサイエンス技術が用いられています。本特論では、どのような先端技術が存在するのか、それはどのような原理に基づいているのか、どのように応用されているかなどについて解説します。すなわち、脳神経系の動きを分子、細胞レベルで研究するための電気生理学的技術、光学イメージング技術、組織化学的技術などを解説し、学生各自の研究への応用につなげます。また、高次脳機能の研究手法としての各種イメージング技術の原理とその応用についても解説します。

活躍する修了生からのメッセージ



片山 脩さん

国立長寿医療研究センター
老年学・社会科学研究センター
予防老年学研究部
特任主任研究員

悩みの先にあった、 学びという希望

地域在住高齢者を対象に、非薬物療法による老年症候群、認知症、介護予防の研究に取り組んでいます。大学院進学のかっかけは、頭脳損傷の患者さんの痛みを軽減できず悩んでいた折に、畿央大学ニューロリハビリテーションセミナーへ参加したことでした。現在は、大学院で培った脳波研究の知見を活かし、認知予備能の神経基盤の解明に挑戦中。異なる視点を持つ先生や先輩、同じ目標を持つ仲間と学んだ時間は、かけがえのない財産です。

全文は
こちらから



大松 聡子さん

株式会社デジリハ 研究開発部
畿央大学ニューロリハビリ
テーション研究センター
客員准教授

大学院で得た、 実践に生きる“思考力”

脳卒中を中心とした中枢神経疾患の支援に従事していました。当時の勤務先には大学院に通うスタッフや学会発表を行う同僚がおり、彼らの分析力や対応力に刺激を受けて進学を決意。大学までは「教わること」が中心でしたが、大学院では「問を立て、試行錯誤する力」が養われ、この学びは現在の実務にも活かしています。大学院進学は決して楽な道ではありませんが、その厳しさの中にこそ、自分の可能性を広げるチャンスがあると感じています。

全文は
こちらから



3年

健康科学研究科 健康科学専攻

博士後期課程

取得できる学位

- 健康科学研究科博士後期課程
博士(健康科学)(Doctor of Philosophy in Health Science)

健康科学分野における 様々な学術課題を考究する

募集対象

- 高度専門職業人、教育研究者として健康科学の実践の発展に貢献する意欲のある者
- 健康科学分野の活動において指導力を発揮するために、論理的思考評価、企画能力、表現能力をみがこうとする者
- 人々の尊厳と健康が保障される社会をつくるために倫理的な判断と行動ができる者
- 新たな学際的研究分野を開拓し、新しい学問を構築していける高い能力と意思を持つ者

修了後の進路

- 創造性豊かな優れた研究・開発に自立して取り組むことのできる研究者
- 確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた高等教育機関の教育研究者
- 課題解決型の研究に取り組む、高度かつ指導的役割を果たすことができる専門的業務従事者

博士後期課程

健康生命科学分野

人体の構造や機能が、摂取する食物などの栄養素や、日常生活に伴う運動・行動および生活環境によってどのように影響を受けるかを研究対象とし、基礎医学的な方法により研究を行います。将来的には研究者、教育者の育成をめざします。

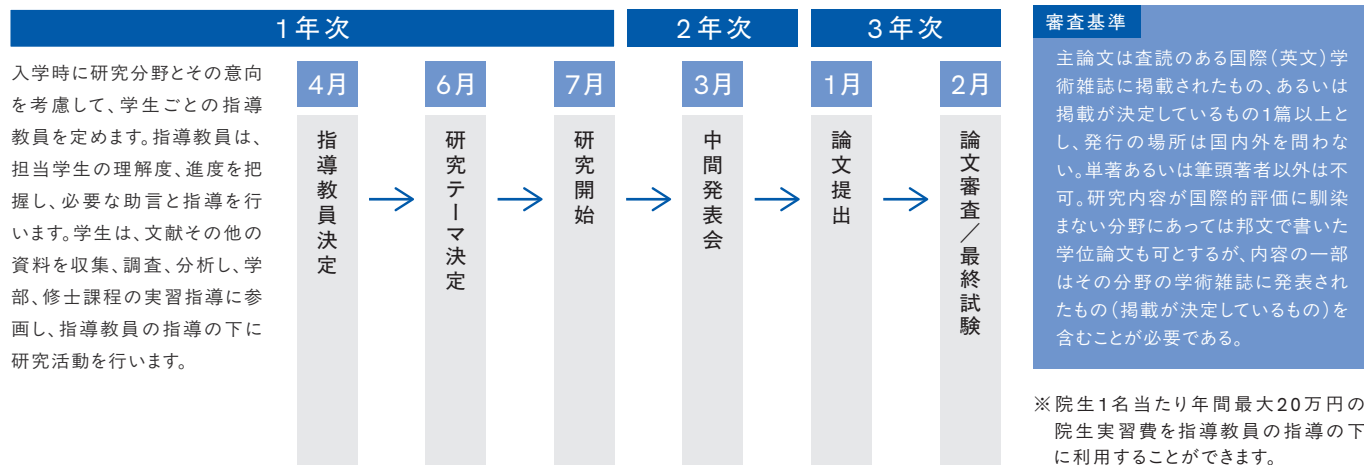
健康支援科学分野

人間の健康維持・増進を最も効果的に支援できる方法を明らかにするため、新しい理学療法や、食、住環境の今後のあり方を求めて研究を行います。優れた研究能力を持ち高度な専門性を必要とされる業務に携わる人材の育成をめざします。

ライフテクノロジー(生活支援技術)学分野

生活の質的向上のための使い勝手の良い技術が次世代型生活支援技術です。ロボット、生体工学、AI応用等を包含した分野で主体的に健康を維持・促進し、生活するための技術の研究開発を進める人材の育成をめざします。

論文作成の流れ



活躍する修了生からのメッセージ



宮脇 裕さん

産業技術総合研究所
人間社会拡張研究部門
研究員

キャリアの転換点は、
学ぶことの楽しさに気づいた瞬間

メッセージ全文は
こちらから



中学時代の病気による長いブランクを経て理学療法士に。現場で患者さんと関わる中で「学ぶことの楽しさ」に気づき、研究の道を志しました。大学院では、自分の関心に全力で取り組める環境が整っており、指導教員や仲間が存在が研究への情熱を支えてくれました。学会での経験を通じて、自分一人では想像できなかった新たな研究展開を得ることができ、これらを通して培った研究計画や学際的な専門性は、研究職としての基盤となっています。



高村 優作さん

ソルボンヌ大学/Inserm/Paris
Brain Institute
歳央大学ニューロリハビリテ
ーション研究センター特任研究員

学びの根底にあるのは、
知的好奇心

理学療法士養成校時代から、ヒトの心のメカニズムなど様々な領域の科学に興味がありました。大学院生時代には他の大学院生や先生方との会話や講義などからたくさんのお話を学ばせていただきました。歳央大学大学院の魅力は一つの研究領域だけでなく、様々な領域の研究を知ることができること、そしてそのための実験設備が充実していることです。これらに興味を持つ人には歳央大学大学院をおすすめしたいですね。

開設科目と授業担当者

	科目名	担当教員	単位	修了要件
共通科目	先端ヘルスサイエンスセミナー 必修	植田政嗣・永澤健・根津智子・前原佳代子・大住倫弘・冬木正紀・森康浩・松本大輔	1	共通科目2科目 必修2単位
	インタープロフェッショナルワーク論 必修	田平一行・林田大作・岩田恵美子・高取克彦・山本裕子・大住倫弘・福本貴彦・村木悦子・米田武志・松本大輔	1	

	科目名	領域	授業科目の名称	担当教員	単位	修了要件
専門科目	健康生命科学分野	生体機能科学	生体機能科学特講	植田政嗣・祐實泰子・永澤健・前原佳代子・森康浩	2	特講 2単位 + 特講演習 2単位
			生体機能科学特講演習		2	
	健康支援科学分野	健康リハビリテーション科学	健康リハビリテーション科学特講	森岡周・庄本康治・高取克彦・田平一行・冷水誠・松尾篤・峯松亮・瓜谷大輔・福本貴彦・大住倫弘・岡田洋平・信迫悟志・前岡浩・松本大輔・宮本直美	2	
			健康リハビリテーション科学特講演習		2	
		健康生活環境科学	健康生活環境科学特講	栢野新市・松村羊子・東実千代・林田大作	2	
			健康生活環境科学特講演習		2	
	ライフテクノロジー (生活支援技術)学分野	次世代型生活支援技術学	次世代型生活支援技術学特講	冬木正紀	2	
			次世代型生活支援技術学特講演習		2	
	分野共通	特別研究	上記の教員		6	特別研究の 論文審査で6単位

必修

先端ヘルスサイエンスセミナー

内外の最先端の健康科学に関連する学際的な研究手法を学びます。本研究科の特に優れた研究業績を挙げている専任教員から、それぞれの領域における詳細な研究手法をオムニバス形式で学び、積極的な討論を経て、博士論文作成に必要な知を涵養します。本科目は分野共通の必修科目とし、メディアを利用した科目です。

インタープロフェッショナルワーク論

リハビリテーション専門職(理学療法士、作業療法士など)、看護職、栄養士、建築士をはじめとして、医学、福祉学、工学、理学、環境学、社会科学など異なる教育的背景を持つ学生が、ヘルスプロモーションという共通の目標に向かって課題を探索し相互に学ぶプロセスを通して、専門職間の連携と協働の意義や方法論を修得します。これにより、学生の多角的な視点を育て、特定領域にしばられない新しい発想と論理的・創造的思考力を培うことをねらいとします。本科目は分野共通の必修科目とし、メディアを利用した科目です。

履修モデル(例)

健康生命科学分野

●学生プロフィール

本研究科修士課程、あるいは他学の修士課程から進学し、将来、健康生命科学分野における教育者・研究者として業務に就くことを目標としている者。

●志望理由

本研究科修士課程において、ヒトの視覚認知研究を行ったが、そのエビデンスを追究する目的で、実験動物なども用いて発展させるために博士後期課程に進学を希望。

●研究課題

「視覚系におけるシナプス可塑性の変化機構に関する研究」

科目	授業科目	単位	内容
共通科目	先端ヘルスサイエンスセミナー	1	上記参照 必修
	インタープロフェッショナルワーク論	1	上記参照 必修
専門科目	生体機能科学特講	2	イオンチャネルやトランスポーター、シナプス伝達、シナプス可塑性、筋収縮、感覚受容、感覚の中枢処理、中枢の統御機能など動物性機能や代謝、呼吸循環など人体のホメオスタシスに関する植物的機能に関して学ぶ。
	生体機能科学特講演習	2	動物性機能あるいは植物性機能における新規的なメカニズムを明らかにするための実際の実験手法を実践的に修得する。
	特別研究	6	研究課題の通り
合計		12	

健康支援科学分野(健康リハビリテーション科学)

●学生プロフィール

本研究科修士課程、あるいは他学の修士課程を修了した理学療法士で、将来、臨床において指導的役割を果たしていくことを希望する者。

●志望理由

理学療法士の資格取得後3年間民間病院で勤務し、働きながら修士号を取得。その後、老健施設への配属となるが、施設入所者個々の活動状態に応じた生活障害の改善と自立支援の方策を明らかにすることを目的に進学を希望。

●研究課題

「インタープロフェッショナルワークの実践による介護老人保健施設入所者の生活障害改善および自立支援に関する研究」

科目	授業科目	単位	内容
共通科目	先端ヘルスサイエンスセミナー	1	上記参照 必修
	インタープロフェッショナルワーク論	1	上記参照 必修
専門科目	健康リハビリテーション科学特講	2	健康科学といった学際的な視点から、各領域のリハビリテーション科学について、総合リハビリテーション学(生活援助科学)から、内外の最新知見を学ぶ。
	健康リハビリテーション科学特講演習	2	総合リハビリテーション学(生活援助科学)領域における明らかにすべき問題を探り、その問題を解決するための新しい研究デザインを検討する。
	特別研究	6	研究課題の通り
合計		12	

Q&A

Q

学位論文作成に4年以上かかりそうです。
長期履修の制度はありますか？

A

博士後期課程に長期履修制度はありません。3年を超えて在籍し研究活動が続ける場合の授業料等は、半期分5万円、通年で10万円で、最長入学後から6年間で在籍できます。

Q

研究でデータを取るため、深夜から朝まで
研究施設・設備を使いたいのですが可能でしょうか？

A

実験系の研究では24時間通してデータを取得し続けなくてはいけないものもあり、また社会人学生が多く、夕方からの本格的な実験を希望する学生が多いのも本学の特色です。そこで研究施設・設備については特別に24時間使用できる環境を整えています。

教員プロフィール



植田 政嗣 / 健康科学研究科長・教授
医学博士 大阪医科大学

大阪医科大学(医学部産婦人科学)婦人科腫瘍科科長を経て、2006年より大阪がん循環器病予防センター婦人科部長、2016年より同センター副所長。大阪大学招聘教授。2018年4月から本学健康科学部長・大学院健康科学研究科長・教授に就任。日本臨床細胞学会会長、日本婦人科がん検診学会会長、日本ヒト細胞学会会長を歴任。大学卒業以来、一貫して婦人科腫瘍学の基礎および臨床的研究に取り組んできた。

- テーマ例**
- 子宮頸がんの予防・診断・治療
 - 細胞診・コルポスコピー教育ツール開発
 - 遺伝子診断によるがんや生活習慣病のリスク評価



信迫 悟志 / 教授
博士(健康科学) 畿央大学

2001年に理学療法士免許取得。2009年に畿央大学大学院健康科学研究科修士課程を修了し、2012年に同大学院博士課程を修了。急性期、回復期、維持期における14年間の臨床経験を経て、2015年より畿央大学大学院特任助教、その後、助教、准教授を経て、現在教授。現在は、主に高次脳機能障害、神経発達症の臨床研究に取り組んでいる。

- テーマ例**
- 子どもの運動発達／認知発達に関する発達科学研究
 - 神経発達症のメカニズムと発達支援／リハビリテーション研究
 - 高次脳機能障害のメカニズムとリハビリテーション研究



祐實 泰子 / 教授
博士(医学) 大阪大学

大阪大学大学院医学修士課程修了後、同大学院にて博士号取得。博士取得後、大阪バイオサイエンス研究所の特別研究員を経て、企業研究所主任研究員としてがんの新たな創薬ターゲットとなる分子や分子メカニズムの研究を行う。2016年から現職となり、新たに老化と筋芽細胞の分化メカニズムに関する研究にも取り組んでいる。

- テーマ例**
- がんの微小環境と治療抵抗性
 - 活性化型Srcのがん化メカニズム
 - 老化幹細胞ニッチにおける筋再生制御に関わる因子の同定



松尾 篤 / 教授
博士(保健学) 神戸大学

2003年から畿央大学助手、その後同助教、准教授を経て2014年から畿央大学大学院教授。畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター教授も併任し、社会神経科学と神経リハビリテーションの融合と発展に尽力している。

- テーマ例**
- コミュニケーションに関連する社会神経科学研究
 - 脳卒中後の運動障害に対する神経リハビリテーション研究



前原 佳代子 / 教授
博士(医学) 浜松医科大学

浜松医科大学医学部医学科卒業、同大学大学院医学研究科博士課程修了。医師。浜松医科大学附属病院で勤務後、国立長寿医療研究センター、英国バークソンがん研究所、久留米大学分子生命科学研究所、国立成育医療研究センターで研究に従事。2015年から現職。専門は分子生物学、基礎老化学、産婦人科学。

- テーマ例**
- 微小重力環境における細胞応答に関する研究
 - 細胞老化とクロマチン構造の研究



岡田 洋平 / 教授
博士(保健学) 大阪府立大学

理学療法士として臨床経験後、2008年より畿央大学助手、助教を経て、2016年より畿央大学大学院准教授。畿央大学ニューロリハビリテーション研究センターに所属し、運動制御・運動障害および神経疾患(特にパーキンソン病)のリハビリテーションの領域で臨床研究、基礎研究を実施し、多くの研究業績を残している。

- テーマ例**
- ヒトの運動制御機構に関する研究
 - 姿勢、歩行制御の神経機構とリハビリテーション
 - 運動学習
 - 神経疾患の運動障害のメカニズムとリハビリテーション



森 康浩 / 准教授
博士(工学) 倉敷芸術科学大学

北里大学にて臨床検査技師および細胞検査士を取得し、同年に国際細胞検査士も取得。倉敷芸術科学大学大学院では子宮内膜癌の発癌機構の解明や子宮内膜細胞診の診断精度の向上についての研究に従事し、博士課程修了後は同大学にて臨床検査技師教育、特に細胞検査士教育について主として従事。2023年より現職。日本臨床細胞学会評議員。

- テーマ例**
- 子宮内膜癌の発癌機構の解明および新規治療法の開発
 - 腫瘍の薬剤耐性機序の解明



冷水 誠 / 教授
博士(保健学) 神戸大学

理学療法士として臨床経験を修了し博士(保健学)を取得。2004年度より畿央大学健康科学部理学療法学科助手として勤務し、同助教を経て2021年度より教授として運動学習および動作制御メカニズムに関する研究に取り組んでいる。

- テーマ例**
- 効果的な運動学習をもたらす介入方法に関する研究
 - 社会的報酬および対人関係がヒトの行動変容に及ぼす影響に関する研究



森岡 周 / 研究科主任・教授
博士(医学) 高知医科大学

日本神経理学療法学会副理事長、日本ニューロリハ学会評議員、日本小児リハ学会評議員、東京都立大学大学院客員教授。病院勤務を経てフランス・サンタンヌ病院留学。博士号取得後、畿央大学に着任。現在はニューロリハ研究センター長・教授として、ニューロリハ、神経科学、身体性等の研究・教育に取り組む、これまで数多くの業績・受賞で知られている。現在は日仏合同でCREST-ANR研究「ナラティブ・エンボディメント」を遂行している。

- テーマ例**
- 脳卒中後運動障害の神経リハビリテーション
 - 身体性の変容メカニズムの解明
 - 高次脳機能障害の研究
 - 自己意識とナラティブに関する研究



前岡 浩 / 教授
博士(保健学) 神戸大学

神戸大学大学院医学系研究科修士課程および神戸大学大学院保健学研究科博士課程修了。理学療法士として病院で勤務後、2007年より畿央大学健康科学部理学療法学科助手として勤務し、その後同准教授として教育および研究活動を継続。日本理学療法士協会専門理学療法士(神経理学療法)を取得し、疼痛関連領域に関する研究活動を行う。

- テーマ例**
- 痛みの中樞機構におけるメカニズム研究
 - 痛みの情動、共感および社会的痛みの研究
 - 痛みに対する治療戦略に関する研究



大住 倫弘／准教授

博士(健康科学) 畿央大学

理学療法士として総合病院で勤務後、畿央大学ニューロリハビリテーション研究センターに勤務。畿央大学大学院健康科学研究科で痛みの基礎研究を行い博士(健康科学)取得。現在は、幻肢痛・複合性局所疼痛症候群・脳卒中後疼痛・慢性腰痛・脊髄損傷後疼痛の臨床研究に取り組んでいる。日本ペインリハビリテーション学会理事として学会活動に参画。

テーマ例

- ・脳卒中後・脊髄損傷後疼痛のリハビリテーション研究
- ・脳波・心電図を活用した痛みのリハビリテーション研究
- ・幻肢痛のリハビリテーション研究



松本 大輔／准教授

博士(健康科学) 畿央大学

神戸大学を卒業後、病院勤務しながら、神戸大学大学院医学系研究科修士課程を修了。2008年畿央大学健康科学部理学療法学科に着任。2019年から准教授。その後、博士号取得。行政や企業と共同し、健康増進事業・研究に従事。理学療法学会大会優秀賞受賞。2023年トゥールーズ大学病院老年科加齢研究所(フランス)に在籍。

テーマ例

- ・高齢者の介護予防に向けた関連要因および近隣環境・地域格差の検討
- ・子ども、産後女性、勤労者の身体活動・健康に関連する要因の検討
- ・身体活動およびフレイル・サルコペニアに関する行動遺伝学的研究



田平 一行／教授

博士(保健学) 広島大学

日本呼吸理学療法学会理事、奈良県理学療法士協会副会長。聖隷三方原病院、国家公務員共済組合連合会吉島病院にて主に呼吸器疾患患者の理学療法に従事した後、畿央大学に着任。日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌編集委員、奈良県理学療法士協会学術局長など務める。呼吸リハビリテーションに関する執筆や研修会講師として活躍。

テーマ例

- ・呼吸器疾患患者における骨格筋酸素動態の臨床的検討
- ・喀痰排出能力としてのCPFの妥当性と関連する要因についての検討
- ・咳嗽能力判定システムの開発



瓜谷 大輔／教授

博士(医学) 兵庫医科大学

日本理学療法士協会専門理学療法士(運動器、生活環境支援)、認定理学療法士(徒手理学療法)。2000年神戸大学医学部保健学科卒業。2017年メルボルン大学客員研究員。専門は運動器障害理学療法。WCPT2015 Early Career Researcher Award、2015年運動器の10年日本賞優秀賞、第9回日本運動器理学療法学会学術大会優秀賞、第10回日本筋骨格系徒手理学療法研究会学術大会優秀賞受賞。

テーマ例

- ・運動器障害に対する理学療法に関する研究
- ・膝関節、足部・足関節のバイオメカニクスに関する研究



宮本 直美／准教授

博士(医学) 長崎大学

信州大学医療技術短期大学部を卒業後、金沢循環器病院、長崎呼吸器リハビリクリニックに勤務し、主に呼吸器・循環器疾患患者の理学療法に携わる。長崎大学大学院医歯薬学総合研究科にて修士課程および博士課程を修了し、2014年から畿央大学健康科学部理学療法学科に着任。呼吸リハビリテーション分野に関する研究活動を行っている。

テーマ例

- ・慢性呼吸器疾患患者に対する呼吸リハビリテーション
- ・間質性肺疾患患者に対する呼吸リハビリテーション
- ・運動時における呼吸筋の筋活動特性について



福本 貴彦／教授

博士(医学) 奈良県立医科大学

九州リハビリテーション大学校と九州工業大学を卒業し、一人医工コラボレーションをしている。九州労災病院で10年の臨床経験を積んだのちに畿央大学へ着任。臨床時代は、工学部で培った力学の知識を使い、加速度計を用いたスポーツ動作の力学的解釈に携わる。現在は、三次元動作解析装置を使用して客観的に様々な動作を捉えるとともに、臨床現場で簡便に計測できる評価機器の開発などを行っている。

テーマ例

- ・スポーツ動作解析
- ・軟性装具の開発
- ・足指握力の標準値作成
- ・足指握力と身体運動との関係調査



庄本 康治／教授

博士(保健学) 神戸大学

臨床活動は府中病院、ベルランド総合病院、大阪厚生年金病院(JCHO大阪病院)で実施。2007年から畿央大学健康科学部理学療法学科、大学院健康科学研究科教授。日本物理療法学会理事長、日本理学療法士協会、奈良県理学療法士協会。物理療法全般に関する臨床研究を中心に実施している。

テーマ例

- ・TENSが鎮痛に与える影響(基礎・臨床)
- ・NMESが末梢循環、筋力に与える影響(基礎・臨床)
- ・経皮的迷走神経刺激の与える影響について(基礎)
- ・NMES、TENSなどの機器開発



峯松 亮／教授

博士(保健学) 広島大学

広島大学医学部保健学科を卒業後、広島大学医学系研究科保健学専攻修士課程および博士課程を修了。2003年に畿央大学健康科学部に着任、現在に至る。介護支援専門員、日本理学療法士協会専門理学療法士(基礎系、生活支援系)、骨粗鬆症学会骨粗鬆症マネージャーの資格を有し、関連学術分野で研究活動を続けている。

テーマ例

- ・骨粗鬆症に関する基礎的・臨床的研究について
- ・高齢者の身体機能について



高取 克彦／教授

博士(保健学) 神戸大学

畿央大学ヘルスプロモーションセンター長。神戸大学大学院保健学研究科博士後期課程修了。大阪厚生年金病院リハビリテーション科、西大和リハビリテーション病院を経て、畿央大学健康科学部理学療法学科に入職。日本理学療法士協会認定、介護予防および地域ケア会議推進リーダー。地域高齢者の介護予防、転倒予防、健康増進分野にてアクションリサーチと公衆衛生的視点の両面から研究活動を行っている。

テーマ例

- ・住民主体の介護予防における客観的効果の検証と一般介護予防の見える化について
- ・高齢者の主観的年齢と健康関連アウトカムとの関係性について
- ・介護予防における自助と互助の客観的効果に関する研究



石垣 智也／准教授

博士(健康科学) 畿央大学

理学療法士として主に地域・在宅の臨床に従事しつつ、2018年に畿央大学大学院健康科学研究科を修了し博士(健康科学)を取得。その後、臨床および研究教育職を経て、2025年より畿央大学に着任。現在は、要介護高齢者の生活機能およびQOLに関する臨床研究に取り組んでいる。また、日本地域理学療法学会理事、日本老年療学会理事として当該領域の学会活動にも貢献している。

テーマ例

- ・要介護高齢者および有疾患者の身体活動量と生活リズムに関する研究
- ・地域および在宅環境で活用可能な各種評価(運動機能・心理尺度)に関する研究
- ・要介護高齢者および家族介護者のQOL(介護負担感を含む)に関する研究

教員プロフィール



河野 由美 / 教授

博士(文学) 大阪市立大学

看護師として8年間病院勤務した後、大学院で社会心理学を専攻する。外郭シンクタンクで主任研究員を務め大規模調査を実施。宗教心理学や死生心理学などの専門書執筆の他、日本看護教育学会誌・日本看護学会誌・実践社会心理学研究(優秀論文賞受賞)など多数の学術雑誌に論文を投稿。実証的にアプローチする社会心理学の視点から生老病死を研究している。

テーマ例

- ・ヒューマンケアに関する心理学的研究
- ・死生観など死に関連した態度とSpiritualityに関する心理学的研究
- ・在宅ターミナルケア(看取り)と高齢者のターミナルケアに関する研究



岡 いくよ / 教授

博士(社会学) 関西学院大学

助産師として地域での産前/産後の育児支援活動に関わりつつ、そうした経験を社会的な視点から研究する。出産、育児をめぐる社会で不可視化されがちな問題に焦点をあて、現場の声を記述。現場での実践的な課題に取り組み、社会学的・民俗学的な検討を重ねている。

テーマ例

- ・産前産後の育児支援に関する研究
- ・助産のエスノグラフィに関する研究
- ・出産後の育児技術習得に関する研究



文 鐘聲 / 教授

博士(保健学) 大阪大学

日本公衆衛生学会認定専門家。公衆衛生学、社会疫学、高齢者保健福祉、国際保健(特に在日外国人)を専門としている。健康格差の解消を研究のメインテーマとし、百寿者を含む在日外国人高齢者の健康と生活に関する量的研究、自治体と協働した壮年期・高齢期の健康増進、介護予防等を推進する研究(KAGUYAプロジェクト)、骨粗鬆症の疫学研究に従事している。

テーマ例

- ・健康の社会的決定要因(健康格差)に関する研究
- ・在日外国人の健康と生活に関する研究
- ・地域在住者のソーシャル・キャピタルと健康に関する研究



森岡 広美 / 教授

博士(保健学) 金沢大学

臨床看護師として急性・慢性期の病棟や在宅看護を経験後、大学・大学院において教員の職に就いた。学位は国際協力修士と博士(保健学)を取得。看護基礎教育では、自身の臨床実践経験を活かして、現在および未来に役立つ看護実践力を教授できるよう、常に教授法や教材開発をおこなっている。また、人生100年時代、すべての人々が悔いなく生命活動できるよう、幅広い分野の有識者と共に社会活動をおこなっている。

テーマ例

- ・Advance Care PlanningおよびQuality of Life・Quality of Dyingに関する研究
- ・エンゼルケアおよびEnd of Lifeに関する研究
- ・シミュレーションラーニングおよび教材開発



山本 裕子 / 教授

博士(看護学) 大阪府立大学

大阪大学医学部附属病院看護師、大阪大学助手、大阪府立大学講師、摂南大学教授を経て、2015年度より畿央大学教授。2005年度大阪府立大学若手研究員在外研究研修にて半年間アメリカのVillanova大学に出張し、アメリカの看護教育について研究。主な研究領域は慢性看護学で、糖尿病看護・神経難病看護をテーマにしている。日本糖尿病教育・看護学会評議員。

テーマ例

- ・糖尿病とがんを併せ持つ患者のセルフマネジメント支援
- ・神経難病看護の実践知
- ・看護教員・看護師のキャリア開発



紅林 佑介 / 准教授

博士(看護学) 杏林大学

看護大学卒業後、精神科病棟の病棟看護・訪問看護・教育指導に携わる。臨床活動と並行し、大学院で統合失調症患者の認知機能障害の研究に取り組み、博士号取得。現在は、主に重症精神疾患患者の症状や生活習慣の改善に向けた援助方法の開発研究をしており、その成果は国際誌および国際学会で多数発表している。2023年より現職。

テーマ例

- ・精神疾患患者の神経認知機能の特徴の解明
- ・生活習慣介入による健康者および精神疾患患者のメンタルヘルスへの効果
- ・Self-compassionと対人援助能力との関連



對中 百合 / 准教授

博士(看護学) 人間環境大学

看護師として17年間病院勤務、病棟・外来・訪問看護を経験したのち、看護教育と実践の連携を目指して看護教育学を専攻し修士課程を修了。2012年度より畿央大学に勤務。一般病棟やICUにおけるエンドオブライフケアをテーマに研究している。国際ケアリング学会評議員。

テーマ例

- ・End-of-Life Careにおける看護実践能力尺度の開発
- ・患者のQOL・QODDを高めるケア要素と阻害する要因
- ・ICUにおけるエンドオブライフケアの構成要素



田中 陽子 / 准教授

博士(看護学) 大阪府立大学

看護系大学を卒業後、市町村保健師として10年従事。神戸大学大学院保健学研究科修士課程修了後、大阪府立大学大学院看護学研究科博士課程修了。京都府立医科大学助教、神戸大学助教、大阪市立大学非常勤講師を経て、2019年畿央大学に着任後、現在准教授。大阪公立大学大学院看護学研究科研究員。医療的ケア児の愛着形成支援に関する研究に取り組んでいる。

テーマ例

- ・障害児とその家族の愛着形成支援に関する研究
- ・母子保健分野に関する研究
- ・保健師教育に関する研究



栢野 新市 / 教授

博士(学術) 大阪市立大学

大阪市立大学生活科学部食物学科学卒業。三基商事株式会社総合研究所にて機能性食品の研究開発に従事した後、2004年に畿央大学健康科学部助手、2009年より現職。この間、大阪市立大学大学院生活科学研究科客員研究員を経て客員助教授。日本栄養・食糧学会、日本食品化学学会、日本調理科学会に所属。

テーマ例

- ・ドライフルーツが有する機能性の評価に関する研究
- ・植物性食品素材に含まれる機能性成分の構造解析および定量法に関する研究
- ・食品の抗酸化性による糖尿病合併症予防の研究



松村 羊子 / 教授

博士(医学) 奈良県立医科大学

大阪市立大学生活科学部食物学科学卒業、塚本山学院短期大学家政科食物専攻助手を経て食品会社で品質管理・開発を担当。2003年畿央大学健康科学部助手を経て2020年より現職。2007年放送大学大学院文化科学研究科修了、2017年奈良県立医科大学大学院医学研究科において博士(医学)取得。

テーマ例

- ・奈良県産柿タンニンの機能性評価に関する研究
- ・食品に含まれる抗酸化性成分の評価に関する研究



米田 武志／准教授

博士(農学) 京都大学

大阪市立大学(学部・修士)において擬穀物の機能性研究に従事。その後、京都大学大学院にて食品のおいしさ、特に油脂の病み付きになる魅力について行動科学的研究を行い学位(農学)を取得。学位取得後は大塚製薬株式会社にて6年半、大豆の健康機能、主に更年期女性の諸症状に関する食品開発に従事。三重短期大学助教を経て2017年より現職。

テーマ例

- 油脂を含む食品のおいしさに関する研究
- おいしさを評価する行動科学実験装置の開発



陳 建中／准教授

博士(工学) 東京大学

東京大学大学院(建築学専攻)修了後、建築設計事務所勤務、畿央大学健康科学部人間環境デザイン学科助教を経て現職。日本建築学会、台湾建築学会、人間・環境学会に所属。屋外空間や居住環境などを研究。

テーマ例

- 屋外空間の使われ方に関する研究
- まちの居場所に関する研究
- 集落と家屋の形態に関する研究



永澤 健／教授

博士(医学) 東京医科大学

東京医科大学大学院医学研究科博士課程修了。東京医科大学医学部基礎研究員、広島工業大学情報学部助教・生命学部准教授を経て畿央大学健康科学部健康栄養学科教授。専門は運動生理学とスポーツ栄養学。骨格筋の代謝・循環の応答機序に関する運動生理学的研究とスポーツ選手の栄養管理に関する研究に取り組んでいる。日本体力医学会評議員。

テーマ例

- 骨格筋の伸長による抗生活習慣病作用の解明
- スポーツ選手における運動後の栄養管理に関する研究
- 血管機能改善に効果的な食成分とその作用機序に関する研究



前川 歩／准教授

修士(工学) 大阪市立大学

組織設計事務所建築デザイン部勤務を経て、国立文化財機構奈良文化財研究所にて国内外の歴史的建造物および文化遺産の調査研究に従事。2022年より現職。研究領域は、歴史的建造物の歴史的価値の解明のみならず、その持続要因の解明、さらにはその保存再生デザインまで。

テーマ例

- 近代日本における文化財保存概念の形成と展開
- 古都奈良の近代化
- 歴史的建造物の保存再生デザイン



村木 悦子／准教授

博士(食品栄養科学) 静岡県立大学

神戸女子大学家政学部卒業、同大学院を経て、大阪市立大学附属病院栄養部研修生。城西大学薬学部医療栄養学科助手および同短期大学部非常勤講師を兼任。国立精神・神経医療研究センター神経研究所流動研究員および同病院臨床検査部管理栄養士を併任。静岡県立大学にて博士取得。2014年より現職。管理栄養士。専門は臨床栄養学、栄養生理学、食品栄養科学。

テーマ例

- ハーブ・スパイスの生活習慣病予防・改善効果に関する研究
- サルコペニア予防・改善効果に関する栄養学的研究
- 加齢および投薬による食欲不振を改善する食材の検索



李 沅貞／准教授

博士(学術) 大阪市立大学

2004年から畿央大学助手、講師を経て現在は准教授。優れた日本の染色工芸、加賀友禅の色彩に魅せられ色彩学分野へ。現在は漆器を用い、主観的な表現「人間が感じる視覚的質感」を物理的な情報「定量的な反射特性」に対応させ「視覚的質感を定量化する」手法を開発している。

テーマ例

- 光反射モデルに基づいた黒漆の質感の定量化と3DCG再現
- 絹糸の光反射特性に関する研究
- 老人福祉施設における介護ユニフォームに関する研究



東 実千代／教授

博士(学術) 奈良女子大学

奈良女子大学生生活環境学部助手、奈良女子大学大学院人間文化研究科助手、畿央大学健康科学部人間環境デザイン学科助教、准教授を経て現職。日本家政学会、国際家政学会、日本建築学会、室内環境学会、人間・生活環境系学会等に所属し、住居学、住環境学の領域で研究・教育活動を行っている。室内環境学会評議員、人間・生活環境系学会理事。一級建築士。

テーマ例

- 室内空気質の実態と居住者の住まい方
- 温熱生理・心理反応の個人差
- 室内環境・生活習慣と健康



冬木 正紀／准教授

博士(理学) 総合研究大学院大学

学位取得後、株式会社コンボン研究所研究員、神戸大学自然科学系先端融合研究環助教、畿央大学教育学習基盤センター特任准教授を経て現職に就く。文部科学省光科学異分野横断萌芽研究会共同代表等も務める。本学では物質表面および光に関する研究経験を活かして、人工筋肉の特許を取得した。学内および学外連携により特許技術の健康・医療への応用を進めている。

テーマ例

- 人工筋肉の開発と応用(リハビリテーション、パワードスーツなど)
- 人工知能の開発と応用(医療診断、食品ロス防止など)
- 光を用いた腫瘍の検出法および治療法の開発



林田 大作／教授

博士(工学) 大阪大学

東北大学大学院工学研究科博士前期課程修了、大阪大学大学院工学研究科博士後期課程修了。大林組設計部、和歌山大学、大阪工業大学を経て、2021年より現職。インテリアデザイン、福祉住環境デザイン、建築計画・設計分野の研究・実践を通して生活者の居心地の良い場所、住み良いまち、求められる建築とインテリアデザインを追求している。

テーマ例

- 生活の質の向上に資する福祉住環境デザイン・インテリアデザイン
- 空間を場所化する行動からみた建築の計画・設計の理論構築
- 歴史的まち資源の発掘・発信と伝統的住文化の保全・継承



清水 裕子／准教授

博士(学術) 奈良女子大学

ハウスメーカーで技術職として勤務の傍ら、地域居住学研究により博士号取得。2016年より現職。住民主体のまちづくりを核として、空き家の利活用、地域コミュニティの再構築などを研究。建築学会、都市計画学会、家政学会に所属。都市計画学会学術委員、家政学会支部役員を兼任。

テーマ例

- 移住者の既存コミュニティとの関わりに関する研究
- 地域産業の活性化に関する研究
- 観光政策と地域コミュニティとの関わりに関する研究



教育学研究科

— 教育実践学専攻

経験を「実践知」「臨床知」に変える

教育が知識伝達のプロセスと考える時代は終わりました。グローバル化や情報化、少子高齢化といった未曾有の社会変化の中で、かつて学んだ知識やスキルで対処するだけでなく、自分で目標を設定し、振り返り、責任を持って行動する能力などの育成が求められています。そのためには、先端的な研究に裏打ちされた高度な専門的知識や技術を持つとともに、課題解決に向けて自ら考え、行動し続ける実践的指導力を持つ「教育」者の登場が待たれています。そしてその現場は、学校教育だけでなく、医療や社会教育等の現場、特別な支援を必要としている人たちの現場、一般の企業等々と、人と人が出会うすべての場です。

畿央大学大学院教育学研究科(修士課程)は、「教育」の現場で起こる諸課題の解決に資するために、「実践知」「臨床知」というキーワードをたずさえて教育と研究にあたっています。そして、学校教員や教育関連学部を卒業した人たちの現職教育の場であるとともに、対人関係を専門職とされている人や専門職をめざそうとしているすべての人に開かれています。「教育」の現場で、様々な課題の解決に向けて果敢に挑戦しようとしている方々の入学を心からお待ちしています。



教育学研究科長
島 恒生

中央教育審議会道德教育専門部会
文部科学省『小学校学習指導要領
解説特別の教科 道德編』作成協力者
日本道德教育学会常任理事
日本道德教育方法学会企画委員長

理論的・科学的視点に立った 教育実践力を養成

教育学研究科のカリキュラムは、研究活動の土台となる専門基礎科目、「教育実践学」と「発達支援教育」分野の専門科目、教育実践力を養成する演習科目、そして研究指導が有効に組み合わさった内容になっています。理論を実践的に検証して研究論文としてまとめていくと同時に、教育実践力そのものを鍛える内容が特色です。

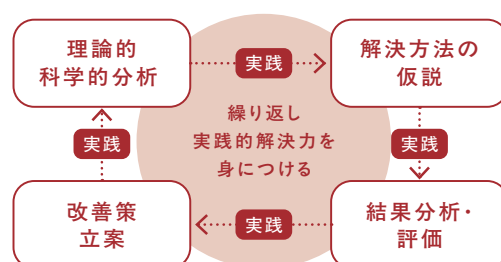
教育学研究科が主に取り組む現代の教育課題

1 生徒指導の充実

2 特別支援教育の充実

3 ICTを活用した教育方法・技術の開発・応用

教育学研究科では現代の教育諸課題の中でも上記の3つの課題に焦点を当て、それぞれに実践的に取り組むことのできる専門性を持った教員を配置しました。教育課程や学級経営・学校経営、そして障がいや健康問題など困難さを抱える子どもについて、右図のように実践、分析、改善策立案を繰り返し、実践的解決力を身につけます。



理論的・科学的視点の獲得

専門基礎科目	
人材養成の共通土台	● 美しく生きるための教育学総合特論
教育諸学の基礎的素養	● 教育学特論Ⅰ(哲学・思想・史) ● 教育学特論Ⅱ(教育方法・技術)
研究遂行に必要な基本技能	● 論文演習 ● 統計解析評価演習 ● ICT応用演習
研究の切り口・方法論	● 発達脳科学特論 ● 教育心理学特論 ● 比較教育学特論 ● 教育法制特論

専門科目
● 教育実践学特論 Ⅰ(教育課程・評価) Ⅱ(学級経営・評価) Ⅲ(学校経営・評価)
● 発達支援教育特論 Ⅰ(発達障害) Ⅱ(障害児教育) Ⅲ(学校保健・学校看護) ● 健康教育特論(運動と栄養)

研究指導

● 演習Ⅰ

● 演習Ⅱ

教育実践力の養成

専門基礎科目	
課題分析・実践的考察	● 教育課題実践演習 ● 地域課題実践演習

専門科目
● 臨床・教育相談実践演習 Ⅰ(生徒指導) Ⅱ(カウンセリング)
● 教育実践学演習
● 発達支援教育実践演習

● 特別研究Ⅰ

● 特別研究Ⅱ

2年

教育学研究科 教育実践学専攻

修士課程

取得できる学位

- 教育学研究科修士課程
修士(教育学)(Master of Education)

教育実践力を高めて、
課題解決を図る

専修免許状(小学校・幼稚園・養護教諭)を取得可能

大学院入学時に一種免許状を取得されている方は、所定科目の単位を取得し大学院修士課程を修了することで専修免許状を取得できます。

取得できる免許の種類と所要年数		
一種免許状	免許状なし	免許状なし
専修免許状 ※1	専修免許状 ※1	一種免許状 ※2
⋮	⋮	⋮
小学校教諭・幼稚園教諭・養護教諭		
2年間	3年間	3年間

※1 専修免許状取得には当該校種の一種免許状を取得し、大学院授業科目のうち指定された科目より12科目24単位以上を修得する必要があります。

※2 一種免許状取得には、学部の科目等履修により小学校教諭67単位、幼稚園教諭59単位、養護教諭64単位が必要ですが、既に取得されている資格・単位によっては軽減されます。授業は昼間に前期・後期各15回が行われ、また教育実習や介護等体験(小学校教諭のみ)も必要となります。

教員免許状を取得していない方も、最短3年で専修免許状が取得できます

現在教員免許状を取得していない方は、大学院の「長期履修学生制度」と学部の授業を「科目等履修制度」で単位修得することで当該校種の一種免許状を取得でき、加えて大学院で所定科目を履修することで専修免許状が取得できます(最短3年)。長期履修学生制度を利用した場合の大学院の学費総額には変わりはありませんが、科目等履修制度については有料(学部の授業は1科目につき20,000円)です。大学院で教員免許状を取得し教員をめざす方の教員採用試験対策については、本学の教採・公務員対策室が全面的にバックアップします。



履修モデル

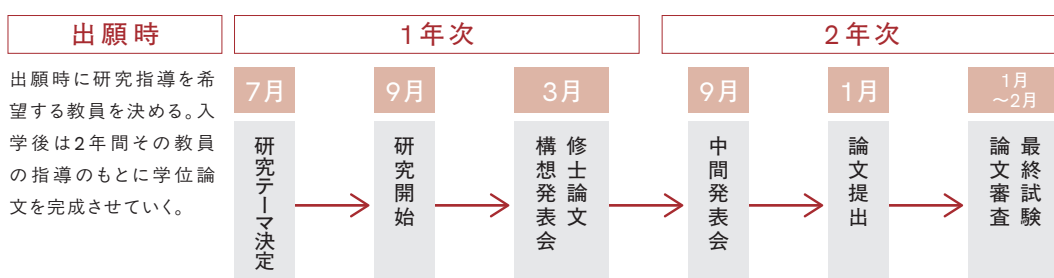
必修科目およびそれぞれの問題意識や興味・関心によって選択科目を履修します。1人の学生の履修ケースを以下に示しますが、これ以外の履修もちろん可能です。また、1年次に配当されている科目を2年次に受講することや、修了要件以上の単位数を取得することも可能です。

いじめや不登校といった教育課題の解決をめざす学生のケース(数字は単位数)

		専門基礎科目			専門科目		演習および特別研究		合計単位	
		必修	選択							
1年次	前期	美しく生きるための教育学総合特論	2	教育法制特論	2	—	演習Ⅰ	2	14	
		教育課題実践演習	2	教育学特論Ⅱ(教育方法・技術)	2					
		教育学特論Ⅰ(哲学・思想・史)	2	教育心理学特論	2					
2年次	後期	論文演習	2	地域課題実践演習	2	教育実践学特論Ⅱ(学級経営・評価)	2	演習Ⅱ	2	10
					教育実践学特論Ⅲ(学校経営・評価)	2				
					教育実践学演習	2				
2年次	前期	—		—		臨床・教育相談実践演習Ⅱ(カウンセリング)	2	特別研究Ⅰ	2	6
						臨床・教育相談実践演習Ⅱ(カウンセリング)	2			
						臨床・教育相談実践演習Ⅱ(カウンセリング)	2			
2年次	後期	—		—		臨床・教育相談実践演習Ⅰ(生徒指導)	2	特別研究Ⅱ	2	4
						臨床・教育相談実践演習Ⅰ(生徒指導)	2			
						臨床・教育相談実践演習Ⅰ(生徒指導)	2			
合計		8(8)		8(6)		10(8)		8(8)		34(30)

注) 合計の欄の()内の数字は修了要件の単位数

論文作成の流れ



※ 院生1名当たり1年次および2年次に最大10万円の院生実習費を、指導教員の指導のもと研究のために使用することができます。

開設科目一覧

	科目名	配当年次	授業形態	単位	修了要件
専門基礎科目	美しく生きるための教育学総合特論 必修	1前	講義	2	7科目14単位以上
	教育課題実践演習 必修	1前	演習	2	
	地域課題実践演習 特色ある科目	1後	演習	2	
	論文演習 必修	1後	演習	2	
	統計解析評価演習	1前	演習	2	
	ICT応用演習	1後	演習	2	
	教育学特論Ⅰ(哲学・思想・史) 必修	1前	講義	2	
	教育学特論Ⅱ(教育方法・技術)	1前	講義	2	
	発達脳科学特論	1後	講義	2	
	教育心理学特論	1前	講義	2	
	比較教育学特論	1後	講義	2	
	教育法制特論	1前	講義	2	
専門科目	教育実践学特論Ⅰ(教育課程・評価)	1後	講義	2	4科目8単位以上
	教育実践学特論Ⅱ(学級経営・評価)	1後	講義	2	
	教育実践学特論Ⅲ(学校経営・評価)	1後	講義	2	
	発達支援教育特論Ⅰ(発達障害)	1後	講義	2	
	発達支援教育特論Ⅱ(障害児教育)	1後	講義	2	
	発達支援教育特論Ⅲ(学校保健・学校看護)	1後	講義	2	
	健康教育特論(運動と栄養)	2後	講義	2	
	教育実践学演習 PICK UP	2前	演習	2	
	発達支援教育実践演習 PICK UP	2前	演習	2	
	臨床・教育相談実践演習Ⅰ(生徒指導) 特色ある科目	2後	演習	2	
	臨床・教育相談実践演習Ⅱ(カウンセリング) 特色ある科目	2前	演習	2	
演習および特別研究	演習Ⅰ 必修	1前	演習	2	8 4単位目
	演習Ⅱ 必修	1後	演習	2	
	特別研究Ⅰ 必修	2前	演習	2	
	特別研究Ⅱ 必修	2後	演習	2	

PICK UP

教育実践学演習 発達支援教育実践演習

「教育実践学特論Ⅰ～Ⅲ」、「発達支援教育特論Ⅰ～Ⅲ」を学んだ上で、自分が解決したいと考える課題に対して学生それぞれが3回の実践にチャレンジ。解決策の立案からその評価・分析、さらなる改善策の構築について教員や同時に受講している仲間たちとも経験交流、意見交換することで新たな可能性が拓けます。



必修

美しく生きるための 教育学総合特論

この科目は、本学の建学の精神「徳をのぼす」「知をみがく」「美をつくる」と教育学の関わりを追究する必修科目です。教育学、教育内容・方法論、道徳教育、ICT、図画工作科教育法等の各専門領域のそれぞれの立場から、教育に携わる者としての理想や目標となる「美しく豊かな生き方」とはどのようなものであるかを考察します。

教育課題実践演習

現代の教育課題やニーズについて、自身の学校現場、諸機関による調査、時事ニュース等を手掛かりに、その課題の所在や要因、背景等を多様な視点で受講者自身が分析、考察し、発表します。その後、受講者の司会によって話し合い、実践経験からの意見や理論的側面からの意見、国際的な動きや地域の状況など、多様な視点から議論し、担当教員が総括します。取り上げるのは「教育課程の編成」「学級経営・学校経営」「いじめの問題」「不登校」「発達障害・特別支援教育」「学校保健・学校看護・健康教育」に関する課題で、専門科目の「教育実践学特論Ⅰ～Ⅲ」や「発達支援教育特論Ⅰ～Ⅲ」の導入ともなる内容です。

特色ある科目

地域課題実践演習

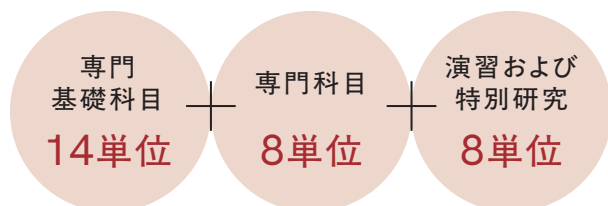
本授業の目的は、地域社会と学校教育の関係性について実践的な理解をした上で、地域と有機的に機能し合う教育を実践できる能力を身に付けることです。地元地域の教育課題については教育委員会や指導主事等を招いて、また教育研究機関への訪問調査も予定しています。保護者からの意見はPTAの協力、少年の健全育成から見た課題や福祉からの視点は健全育成関係機関や福祉機関等の協力も得て、具体的な教育課題の実態を把握します。そのうえで課題解決のためのプレゼンテーションと議論・検討を行う、学生主体のアクション・リサーチ型演習授業です。

臨床・教育相談実践演習Ⅰ(生徒指導)

臨床・教育相談実践演習Ⅱ(カウンセリング)

臨床・教育相談分野に特化して、さらに深くかつ実践的に学修します。生徒指導・カウンセリングについて実践事例を取り上げながら理論等との関連を踏まえた議論を深め、児童生徒や保護者と信頼関係を築き、問題解決に向けて協働的に試行錯誤できる実践力を身につけます。

修了要件および履修方法



専門基礎科目から14単位以上、専門科目から8単位以上、演習および特別研究から8単位を修得し、加えて教育学研究科が行う修士論文の審査および最終試験に合格することによって学位を取得することができます。

活躍する修了生からのメッセージ



飯野 薫さん
—
大阪市公立小学校 教諭

教える立場で、
学ぶ意義を実感した日々

メッセージ全文は
こちらから



小学校教諭として働きながら大学院に進学。自分の学級経営に迷いがあり、もっと道徳を学びたいという探究心が背景にありました。以前は自分の考えに固執していましたが、大学院での経験を経て、より柔軟に対応できるように。現在は勤務校で研究部長を務めており、研究の進め方などで大学院での学びが活かされています。大学院は、これまでの経験と講義で得た知識が結びつき、自分を大きく成長させてくれる場だったと思います。

教員プロフィール



島 恒生 / 教育学研究科長・教授

教育学修士 兵庫教育大学

公立小学校、奈良県立教育研究所を経て、畿央大学教育学部教授。文部科学省「小学校学習指導要領解説道徳編作成協力者」「中央教育審議会初等教育分科会道徳教育専門部会委員」「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議委員」を務める。道徳教育、生徒指導、学級経営等についての執筆多数。全国教育委員会や学校での研修会講師として活躍している。

- テーマ例
- ・道徳教育や道徳科の時間の指導の研究
 - ・道徳的实践としての特別活動の意義
 - ・道徳教育と生徒指導、人権教育等との関連



冬木 正彦 / 教授

理学博士 京都大学、関西大学名誉教授

関西大学工学部専任講師、助教授、教授を経て関西大学大学院で研究指導を担当。授業と学習を統合的に支援するソフトウェアCEAS(シース)の開発を行い2004年度文部科学省現代的教育ニーズ取組支援事業の推進責任者を務めた。CEASは関西大学、畿央大学等で全学利用されている。大学全体の教育支援、専門英語教育の普及促進についても業績を上げている。現在、冬木学園理事長、畿央大学学長。

- テーマ例
- ・AI革命が進行する中での教育
 - ・「反転授業」の実施方式と科目特性の関連
 - ・校務支援システムのあり方と有効性の検討



西端 律子 / 研究科主任・教授

博士(人間科学) 大阪大学

大阪府立工業高等学校助手、専任講師、大阪大学人間科学部助手、大阪大学大学院助教を経て畿央大学教育学部准教授、教授。情報コミュニケーション学会副会長、教育システム情報学会理事を兼任。文部科学省「デジタル学習基盤特別委員会」委員。高等学校情報科「情報I」教科書やメディアリテラシーに関する執筆多数。総務省「若年層のためのプログラミング教育の普及推進」2017年度採択奈良地区代表。

- テーマ例
- ・タブレットPCを利用した授業実践の開発と蓄積
 - ・特別支援教育におけるデジタルコンテンツの開発と共有
 - ・小学校におけるプログラミング教育



小山内 秀和 / 准教授

博士(教育学) 京都大学

臨床心理士として児童養護施設勤務の後、大学院に進学し、日本学術振興会特別研究員(DC2)に採用。在学中は認知心理学の研究に従事し、2014年に学位取得。京都大学大学院教育学研究科研究員、浜松学院大学講師を経て、2020年より現職。専門は教育心理学で、主に物語の理解プロセスについて、成人や児童を対象に調査、実験などの手法を用いて検討している。

- テーマ例
- ・物語読解時に生じる「作品世界に没入する体験」の実証的解明
 - ・青年期の読書行動の実態に関する検討
 - ・物語の読書が「社会性の発達に及ぼす効果に関する検討



大久保 賢一 / 教授

博士(心身障害学) 筑波大学

筑波大学大学院博士課程において発達障害支援の臨床活動や研究に携わり、2010年に学位を取得。2008年から14年まで北海道教育大学准教授として特別支援教育に関わる科目の教鞭を執り、2014年4月から現職へ。専門は応用行動分析学、行動コンサルテーション。最近は学校支援(教員研修)や福祉事業所における強度行動障害支援にも精力的に取り組んでいる。

- テーマ例
- ・行動問題に関わる教員研修プログラムの開発
 - ・School-wide Positive Behavior Supportに関する実証的研究
 - ・ダイバシティ教育に関する理論的検討



関口 洋平 / 准教授

修士(教育学) 京都大学

専門は比較教育学。2018年に学位取得。日本学術振興会特別研究員(PD)、広島大学教育開発国際協力研究センター研究員を経て、2020年より現職。ベトナム社会主義共和国をフィールドとして、高等教育を中心に市場化・グローバル化に伴う教育変容について多角的に研究している。現在は、ベトナム少数民族教育に関する研究にも取り組んでいる。

- テーマ例
- ・社会主義国における教育の原理と変容
 - ・教育におけるグローバル化とナショナリズム
 - ・少数民族に対する教育政策



高田 恵美子 / 教授

修士(文学) 奈良女子大学

小学校養護教諭、奈良県教育委員会事務局保健体育課指導主事、関西女子短期大学専任講師、准教授を経て畿央大学教育学部准教授、教授。2011年、養護教諭制度70周年記念学校保健功労者文部科学大臣表彰受賞。養護実践や健康教育についての執筆多数。子供たちの心身の健康課題の解決に向けて、学校や現職養護教諭等とともに理論と実践を融合させながら取り組んでいる。

- テーマ例
- ・養護教諭の職務実践に関する研究
 - ・感覚処理感受性の高い子供の特徴と支援方法の検討
 - ・学校における性に関する指導の在り方



森岡 伸枝 / 准教授

博士(学術) 奈良女子大学

大学院在学中は近代日本教育史(女子教育)の研究に従事し、京都大学大学院人間・環境学研究科研究員、大阪芸術大学短期大学部准教授を経て、2023年より現職。生駒市社会教育委員会議長や大阪市男女共同参画委員なども務め、現代の政策にも興味を持っている。近年は日本学術振興会の「ひらめき☆ときめきサイエンス」に採択され、子どもに研究を伝えることに挑戦している。

- テーマ例
- ・近代日本の学校の歴史と男女別学
 - ・第二次世界大戦期の家庭教育政策
 - ・日本の学校におけるジェンダー・ギャップ

募集要項

入学までの流れ

事前相談について

本大学院の受験を希望される方は、出願手続を行う前に、研究テーマ等について志望する研究領域の指導教員への事前相談を必ず行ってください。希望する研究内容の指導教員が不明な時は、○のついた総合窓口の担当者にご相談ください。

事前相談
(必須)入学資格審査
※必要のある方のみ
ページ下部を参照

出願

試験

合格
発表入学
手続

健康科学研究科

教員名	修士課程	博士後期課程	メールアドレス	教員紹介
植田 政嗣	生命医科学	生体機能科学	m.ueda@kio.ac.jp	P09
祐賀 泰子	生命医科学	生体機能科学	t.sukezane@kio.ac.jp	P09
前原 佳代子	生命医科学	生体機能科学	k.maehara@kio.ac.jp	P09
森 康浩	生命医科学	生体機能科学	m.mori@kio.ac.jp	P09
森岡 周 ○	神経リハビリテーション学(認知・行動系)	健康リハビリテーション科学	s.morioka@kio.ac.jp	P09
信迫 悟志	神経リハビリテーション学(発達・高次機能系)	健康リハビリテーション科学	s.nobusako@kio.ac.jp	P09
松尾 篤	神経リハビリテーション学(社会・コミュニケーション系)	健康リハビリテーション科学	a.matsuo@kio.ac.jp	P09
岡田 洋平	運動制御・運動障害学(運動制御系)	健康リハビリテーション科学	y.okada@kio.ac.jp	P09
冷水 誠	運動制御・運動障害学(心理・学習系)	健康リハビリテーション科学	m.hiyamizu@kio.ac.jp	P09
前岡 浩	疼痛リハビリテーション学(基礎系)	健康リハビリテーション科学	h.maeoka@kio.ac.jp	P09
大住 倫弘	疼痛リハビリテーション学(臨床系)	健康リハビリテーション科学	m.ohsumi@kio.ac.jp	P10
田平 一行	呼吸リハビリテーション学	健康リハビリテーション科学	k.tabira@kio.ac.jp	P10
宮本 直美	呼吸リハビリテーション学	健康リハビリテーション科学	n.miyamoto@kio.ac.jp	P10
庄本 康治	物理医学系リハビリテーション学	健康リハビリテーション科学	k.shomoto@kio.ac.jp	P10
高取 克彦	地域系リハビリテーション学	健康リハビリテーション科学	k.takatori@kio.ac.jp	P10
石垣 智也	地域系リハビリテーション学	健康リハビリテーション科学	t.ishigaki@kio.ac.jp	P10
松本 大輔	地域系リハビリテーション学	健康リハビリテーション科学	d.matsumoto@kio.ac.jp	P10
瓜谷 大輔	運動器リハビリテーション学(臨床系)	健康リハビリテーション科学	d.uritani@kio.ac.jp	P10
福本 貴彦	運動器リハビリテーション学(スポーツ系)	健康リハビリテーション科学	t.fukumoto@kio.ac.jp	P10
峯松 亮	運動器リハビリテーション学(骨・関節系)	健康リハビリテーション科学	a.minematsu@kio.ac.jp	P10
河野 由美 ○	看護関連科学(看護心理学)		y.kono@kio.ac.jp	P11
岡 いくよ	看護関連科学(社会学)		i.oka@kio.ac.jp	P11
文 鐘聲	看護関連科学(疫学・公衆衛生学)		j.moon@kio.ac.jp	P11
森岡 広美	看護実践学(療養支援看護学)		h.morioka@kio.ac.jp	P11
山本 裕子	看護実践学(療養支援看護学)		yuko.yamamoto@kio.ac.jp	P11
紅林 佑介	看護実践学(精神看護学)		y.kurebayashi@kio.ac.jp	P11
對中 百合	看護実践学(療養支援看護学)		y.tainaka@kio.ac.jp	P11
田中 陽子	看護実践学(地域ヘルスプロモーション科学)		y.tanaka@kio.ac.jp	P11
柏野 新市 ○	食品機能科学	健康生活環境科学	s.kayano@kio.ac.jp	P11
松村 羊子	食品機能科学	健康生活環境科学	y.matsumura@kio.ac.jp	P11
米田 武志	味覚と食嗜好の科学		t.yoneda@kio.ac.jp	P12
永澤 健	運動・栄養生理学	生体機能科学	t.nagasawa@kio.ac.jp	P12
村木 悦子	食品栄養科学		e.muraki@kio.ac.jp	P12
東 実千代	環境デザイン学	健康生活環境科学	m.azuma@kio.ac.jp	P12
林田 大作	環境デザイン学	健康生活環境科学	d.hayashida@kio.ac.jp	P12
清水 裕子	環境デザイン学		h.shimizu@kio.ac.jp	P12
陳 建中	環境デザイン学		c.chen@kio.ac.jp	P12
前川 歩	環境デザイン学		a.maekawa@kio.ac.jp	P12
李 沅貞	環境デザイン学		w.lee@kio.ac.jp	P12
冬木 正紀	次世代型生活支援技術学	次世代型生活支援技術学	mn.fuyuki@kio.ac.jp	P12

教育学研究科

教員名	修士課程	メールアドレス	教員紹介
島 恒生	道徳教育、特別活動	t.shima@kio.ac.jp	P17
西端 律子	教育工学、教育方法	r.nishibata@kio.ac.jp	P17
大久保 賢一	特別支援教育	k.ohkubo@kio.ac.jp	P17
高田 恵美子	養護教育	e.takata@kio.ac.jp	P17
冬木 正彦	教育の情報化	ma.fuyuki@kio.ac.jp	P17
小山内 秀和	教育心理学	h.osanai@kio.ac.jp	P17
関口 洋平	比較教育学	y.sekiguchi@kio.ac.jp	P17
森岡 伸枝	日本近代教育史、ジェンダー	n.morioka@kio.ac.jp	P17

入学資格審査について

対象者

大学院入学資格を有しない者で、2026年4月1日までに修士課程は22歳に、博士後期課程は24歳に達する者。(修士課程はP19出願資格9、博士後期課程はP20出願資格6を参照)

申請受付期間(消印有効)

1期
2025年8月1日(金)～2025年8月15日(金)
2期
2025年12月1日(月)～2025年12月15日(月)

申請書類送付先

〒635-0832
奈良県北葛城郡広陵町馬見中4-2-2
畿央大学入学センター
※封筒の表面に「大学院入学資格審査申請書在中」と朱書きすること。

審査方法

申請書類により行う。

- ①入学資格審査申請書
(本学所定様式・本学ホームページからダウンロード)
- ②出身校の成績証明書および卒業(修了)証明書

③社会人選抜での出願を希望する場合は、社会における実務経験の期間および内容を証明できるものや、取得した資格の証明書(コピー)を添付すること。

審査結果

審査結果は、各入試日程の出願開始日までに申請者宛に送付する。ただし有効期間は交付日より2年間とする。

修士課程 募集要項

入学定員・募集人員・修業年限

研究科	専攻	入学定員	1期	2期	修業年限
健康科学	健康科学	20名	14名	6名	2年
教育学	教育実践学	10名	7名	3名	2年

入試日程

試験区分	試験会場	出願期間(消印有効)	試験日	合格発表日
1期	本学	2025年 9月1日(月)~9月12日(金)	2025年 9月21日(日)	2025年 9月27日(土)
2期	本学	2026年 1月13日(火)~1月23日(金)	2026年 2月1日(日)	2026年 2月7日(土)

出願手続を行う前に、指導教員への事前相談を必ず行ってください(P.18参照)。

選抜方法

筆記試験、面接および書類審査により入学者を選抜します

選抜種別	試験内容	配点
一般選抜	英語 ※	100点
	専門科目(研究領域に関する内容/健康または教育分野の共通問題)	200点
	面接(個人面接形式)	段階評価
	研究計画書その他の提出書類(書類審査)	段階評価
社会人選抜	小論文(研究領域に関する内容/健康または教育分野の共通問題)	200点
	面接(個人面接形式)	段階評価
	研究計画書その他の提出書類(書類審査)	段階評価
学内推薦	小論文(研究領域に関する内容/健康または教育分野の共通問題)	200点
	面接(個人面接形式)	段階評価
	研究計画書その他の提出書類(書類審査)	段階評価

※ 英語は英和辞書1冊の持込可(電子辞書は不可)

試験時間割

面接の順番により、待機時間が生じる場合があります。

一般選抜試験 集合時間12:50

英 語	13:00~14:00(60分)
専門科目	14:20~15:50(90分)
面 接	16:00~順次

社会人選抜試験 集合時間14:10

小 論 文	14:20~15:50(90分)
面 接	16:00~順次

学内推薦試験 集合時間14:10

小 論 文	14:20~15:50(90分)
面 接	16:00~順次

出願資格

一般選抜試験

次の1~9のいずれかに該当する者

- 1 大学を卒業した者および2026年3月卒業見込みの者
- 2 大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者
- 3 外国において学校教育における16年の課程を修了した者および2026年3月修了見込みの者
- 4 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- 5 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者または2026年3月までに修了見込みの者
- 6 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者
- 7 文部科学大臣の指定した者
- 8 学校教育法第102条の規定により大学院に入学した者で、本大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者
- 9 2026年4月1日現在満22歳以上の者で、本大学院において個別の入学資格審査(P.18参照)により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

社会人選抜試験

一般選抜試験の出願資格1~9のいずれかに該当し、2026年4月1日現在満23歳以上で、入学時において医療・保健・福祉、教育研究機関、官公庁、企業等で2年以上の実務経験を有する者

※本研究科に関連する国家資格や免許等を取得している者は、これを優先する。

注)出願資格9による出願者は、事前に入学者資格審査が必要です。
▶P18「入学資格審査について」参照

学内推薦試験

畿央大学を2026年3月に卒業見込みの者で、卒業研究指導教員の推薦書が得られる者

出願書類等

- 1 入学志願票(本学所定用紙)
- 2 成績証明書および卒業(見込)証明書
出願資格を満たす大学等の成績証明書・卒業(見込)証明書
※出願資格9に該当する者、もしくは最終学歴校以外で国家資格、免許等を取得した者は、上記に加えて資格、免許等を取得した教育機関(短期大学・専門学校・各種学校等)の成績証明書・卒業(見込)証明書も提出すること。
- 3 実務経験を証明する書類(社会人選抜試験のみ)
免許証の写しや在職証明書等
- 4 志望理由書(800字程度、書式自由)
- 5 研究計画書(1000字程度、書式自由)または卒業論文(これに準ずる研究報告書・論文等の写し)
- 6 卒業研究指導教員の推薦書(学内推薦試験のみ)
- 7 業績調書(社会人選抜試験のみ、書式自由。任意提出)

博士後期課程 募集要項

入学定員・募集人員・修業年限

研究分野	入学定員	1期	2期	修業年限
健康生命科学 健康支援科学 ライフテクノロジー学	5名	3名	2名	3年

入試日程

試験区分	試験会場	出願期間(消印有効)	試験日	合格発表日
1期	本学	2025年 9月1日(月)~9月12日(金)	2025年 9月21日(日)	2025年 9月27日(土)
2期	本学	2026年 1月13日(火)~1月23日(金)	2026年 2月1日(日)	2026年 2月7日(土)

出願手続を行う前に、指導教員への事前相談を必ず行ってください(P.18参照)。

出願資格

一般選抜試験 次の1~6のいずれかに該当する者

- 修士の学位や、専門職学位を有する者、または2026年3月までに取得見込みの者
- 外国において修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者、または2026年3月までに授与される見込みの者
- 外国の学校が行う通信教育を我が国において履修し、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者、または2026年3月までに授与される見込みの者
- 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者、または2026年3月までに授与される見込みの者
- 文部科学大臣の指定した者
- 2026年4月1日現在満24歳以上の者で、本大学院において個別の入学資格審査(P.18参照)により、修士の学位を有するものと同等以上の学力があると認めた者

社会人選抜試験

一般選抜試験の出願資格1~6のいずれかに該当し、2026年4月1日現在26歳以上で、入学時において医療・保健・福祉、教育研究機関、官公庁、企業等で2年以上の実務経験を有する者

注) 出願資格6による出願者は、事前に入学資格審査が必要です。
▶P18「入学資格審査について」参照

学内推薦試験

畿央大学健康科学研究科修士課程を2026年3月に修了見込みの者で、指導教員の推薦書が得られる者

選抜方法

筆記試験、面接および書類審査により入学者を選抜します

選抜種別	試験内容	配点
一般選抜	英語※1	100点
	専門科目(研究領域に関する筆記試験)※2	200点
	面接(個人面接形式)	段階評価
	研究計画書その他の提出書類(書類審査)	段階評価
社会人選抜 学内推薦	英語※1	100点
	小論文(研究領域に関する内容)※2	200点
	面接(個人面接形式)	段階評価
	研究計画書その他の提出書類(書類審査)	段階評価

※1 英語は英和辞書1冊の持込可(電子辞書は不可)

※2 専門科目および小論文では英語の出題を含む場合があります(辞書持込不可)。

試験時間割

〈共通〉 集合時間12:50

英 語	13:00~14:00(60分)
専門科目または小論文	14:20~15:50(90分)
面 接	16:00~順次

面接の順番により、待機時間が生じる場合があります。

出願書類等

- 入学志願票(本学所定用紙)
- 出身大学院等の成績証明書
- 出身大学院等の修了(見込)証明書または学位授与証(写し)
- 実務経験を証明する書類(社会人選抜試験のみ)
免許証の写しや在職証明書等
- 研究計画概要および研究計画書(3000字程度、書式自由)
- 修士論文等2部
・出身大学院に提出した修士学位論文の写し(本学研究科修士課程出身者は不要)
・修士学位論文提出以後の研究業績を有する者は業績一覧および主たる論文の写し
・修士の学位を有しない者は、業績一覧および主たる論文の写し
- 研究科指導教員の推薦書(学内推薦試験のみ)

働きながら通える
「畿央大学大学院」のヒミツって？



大学院の学びのシステムを紹介する1分間ムービーを公式YouTubeチャンネルで配信中です。

1分でわかる畿央大学

出願共通事項

試験会場

畿央大学(奈良県北葛城郡広陵町馬見中4-2-2)

入学検定料

各日程 35,000円

出願手続・方法

指導教員への事前相談(P.18参照)を必ず行った上で出願書類を一括取り揃え、入学検定料を納付の上、本学所定の大学院入試出願用封筒を使用し、必ず簡易書留速達にて郵送してください(締切日消印有効)。

出願上の注意

- 1 いったん提出された出願書類および納付された入学検定料は、いかなる理由でも返還しません。
- 2 受験票は、出願書類受付後に速達で郵送します。万一、試験実施日の3日前までに届かない場合は、入学センターへお問い合わせください。(0745-54-1603)

受験上の注意

- 1 試験会場の下見は、試験前日の午後(13:00～17:00)に可能ですが、試験室に入ることはできません。
- 2 試験当日は集合時間の1時間前から試験室に入ることができます。遅刻は試験開始後30分までは認めますが、30分を超えた場合は受験できません。

合格発表

- 1 合格結果は合格・不合格ともに合格発表日の前日に本人宛に速達郵便で発送します。合格に関する電話等による問い合わせには一切応じられません。
- 2 合格者には合格通知書と同時に入学手続関係書類を郵送します。
- 3 欠席・途中放棄は「不合格」として判定・通知します。

入学手続

合格者は、合格通知書に同封する入学手続要項を熟読の上、入学手続を行ってください。入学手続期間内に手続書類の提出および納付金の振込など所定の手続をしなかった場合は、入学の意志がないものとみなし、入学資格を取り消します。

試験区分	試験日	合格発表日	第1次入学手続締切日	第2次入学手続締切日
1期	2025年 9月21日(日)	2025年 9月27日(土)	2025年 10月14日(火)	2025年 11月4日(火)
2期	2026年 2月1日(日)	2026年 2月7日(土)	2026年 2月25日(水)	2026年 3月11日(水)

入学手続内容

第1次入学手続(入学申込金の納付および入学手続書類の提出)

第1次入学手続締切日までに入学申込金として入学金相当額(190,000円)を金融機関で振込み、入学手続書類を郵送してください。振込依頼書および入学手続書類は合格通知書に同封します。

第2次入学手続(前期学納金の納付)

第2次入学手続締切日までに前期学納金を金融機関で振込んでください。入学手続完了後、すでに納付されている入学申込金は入学金として取り扱います。なお、第1次入学手続を完了していない場合、第2次入学手続を行うことはできません。

入学手続に必要な納付金

単位:円

	第1次入学 手続納付金	第2次入学手続納付金(前期学納金)				入学手続 に必要な 金額 (合計)
	入学 申込金	授業料	教育 充実費	同窓会費	小計	
健康科学 研究科 (修士課程・ 博士後期課程)	190,000	250,000	125,000	16,000	391,000	581,000
教育学研究科 (修士課程)	190,000	250,000	50,000	16,000	316,000	506,000

※ 畿央大学卒業(見込)生は修士課程および博士後期課程の入学申込金および同窓会費を免除します。また本学大学院修士課程修了(見込)者は博士後期課程の入学申込金および同窓会費を免除します。

2026年度学生納付金

単位:円

	入学金	授業料	教育充実費	同窓会費	初年度納付金(合計)
健康科学研究科(修士課程・博士後期課程)	190,000	500,000	250,000	16,000	956,000
教育学研究科(修士課程)	190,000	500,000	100,000	16,000	806,000

※1 入学金、同窓会費は入学初年度のみ徴収します。

※2 初年度納付金から入学手続に必要な金額を差し引いた残額は2026年9月に徴収します。

入学辞退による納付金一部返還制度について

入学手続時納付金を全額納付し入学手続を完了後(第2次入学手続完了後)、やむをえない理由により入学を辞退する場合は速やかに入学センター(0745-54-1603)へ電話で入学辞退の旨を申し出てください。その上で2026年3月31日(火)12:00までに「入学辞退並びに納付金一部返還願」を提出した方に限り、入学申込金を除く入学手続時納付金を返還します。

入学時成績優秀者特別奨学金制度について

この制度は成績優秀な学生を応援するために設けられています。入学試験の成績上位者(修士課程は上位10%程度、博士後期課程は上位50%程度)が選ばれ、入学年度に30～37.5万円が給付されます(後期学納金から奨学金を差し引くことで給付にかえます)。なお、入学時成績優秀者特別奨学金の給付は入学年度のみですが、2回生以上については特別奨学金制度を設けています(P.2参照)。

長期履修学生制度のご案内(修士課程のみ)

定まった職業を有する方または家事・育児または介護等を行う方を対象として、計画的な長期在学・履修により就学の便宜と授業料の軽減を図る「長期履修学生制度」を設けています。希望される方は入学手続き時に申請が必要となります。また、入学後に長期履修学生制度に変更することも可能です(P.2参照)。

その他

本学は大学敷地内および周辺道路、住宅地内などでの喫煙を禁止しています。

注意事項

次のいずれかに該当する場合は合格を取り消します。

- 1 虚偽・不正の記載または出願資格を満たさない事実が判明した場合。
- 2 2026年3月大学等を卒業見込みの者が卒業できなかった場合(修士課程)。
- 3 2026年3月に修士の学位を取得見込みの者が取得できなかった場合(博士後期課程)。

Q&A

入試

Q 大学の管理栄養士養成課程を卒業して病院に2年間働いたあと、子育てのため6年前に退職しました。健康科学研究科修士課程社会人選抜試験の受験資格はありますか？

A 大学を卒業後、医療機関に2年間働いているので社会人選抜試験の受験資格対象となります。また管理栄養士は合否判定の際に優先資格となります。

Q 2026年3月に3年制の専門学校を卒業予定です。理学療法士として就職も内定していますが、修士課程の受験資格はありますか？

A 修業年限が3年の専修学校を修了した方については、事前に本大学院において行う個別の入学資格審査が必要です。詳しくはP18を参照してください。なお、2026年4月1日現在で22歳未満の方は、修士課程の受験資格が得られませんので注意してください。

Q 外国籍で入学を希望しています。留学生入試等の制度はありますか。

A 外国人特別入試や留学生入試などは実施しませんが、申請によって英語、小論文等の入試において一部英語による解答を認める場合があります。但し、本学の授業はすべて日本語で行われますので、授業をうけるのにさしつかえない程度の日本語能力を有する必要があります。出願の際に「日本語能力試験」(日本国際教育支援協会)または「日本留学試験『日本語』」(日本学生支援機構)の結果を必ず提出してください。

Q 社会人選抜の小論文について教えてください。

A 社会人選抜試験の小論文は90分で、志望する研究領域に関するテーマおよび健康または教育分野の共通問題が出題されます。概論などでベースとなる知識を身につけ、さらに自分の視点をいれながら論述する練習をしておくといでしょう。

Q 面接の形式について教えてください。

A 面接試験は受験者1名に対して面接員が2、3名の個人面接形式です。筆記試験終了後、志望動機や目標、研究の目的や方法などについて質問します。

学生生活

Q 研究にも費用がかかると思います。自分で負担するのですか？

A 本学研究科では院生一人当たり最大で修士課程は年間10～20万円、博士後期課程は年間20万円の院生実習費を用意しています。院生実習費は担当教員の指導のもとに、研究に関係のある消耗品費、機器備品費、図書・図書資料費、印刷費、通信費、発表を伴う学会参加費、修繕費および謝金等に使用することができます。

Q 遠方から入学したいのですが、畿央大学に行く必要はどれくらいありますか。

A 修士課程の1年次に配当されている科目や博士後期課程の共通科目については、インターネットによるオンライン授業対応となっている科目も多く、自宅や職場での受講が可能です。その他の科目についても担当教員と打ち合わせを行い、必要に応じて集中講義等で行うなど、遠方からの入学者に配慮しています。ただし、すべての授業がオンラインで完結するわけではなく、本学の実験装置を用いた実験研究を行う場合や中間発表会、論文審査の際などにも大学に来ていただく必要があります。

Q 仕事で授業と同時に配信されるオンライン授業を受けることができなかったときはどうしたらよいですか？

A 多くの授業ではオンライン授業の内容を記録してオンデマンド教材として配信を行っています。オンライン授業に参加できなかったときは、このオンデマンド教材で確認することができます。

Q 看護師として働きながらスキルアップを考えています。専門学校卒業で英語に少し不安がありますが大丈夫ですか。

A 本学大学院は、社会人がスキルアップをめざして働きながら学べる環境を整え、高度な実践力を持って社会に貢献できる専門職業人の育成を使命の一つとしています。修士課程の社会人入試では英語の試験を課していませんが、研究遂行の基礎となりますので入学前、入学後を通じて計画的に英語の学習を進められることを期待しています。

1科目から大学院の授業を受講することも可能です

興味のある授業科目を1科目から受講することができます。受講するだけなら聴講生、単位取得を目的とするなら科目等履修生として申し込んでください。選考は原則書類審査ですが、面接を行う場合があります。オンライン授業を実施する科目は自宅からも受講できます。また、科目等履修生や聴講生は本学の施設を利用することができます。

問い合わせ先

畿央大学学生支援センター

TEL. 0745-54-1601

選考手数料	申込金		授業料(1科目につき)		出願期間	
	科目等履修	聴講	科目等履修	聴講	前期授業	後期授業
10,000円 (初回のみ必要)	20,000 (初回のみ必要)	10,000 (初回のみ必要)	20,000	15,000	3月1日～ 10日	8月26日～ 9月5日

※ 本学の休業日は出願期間に含まれません。

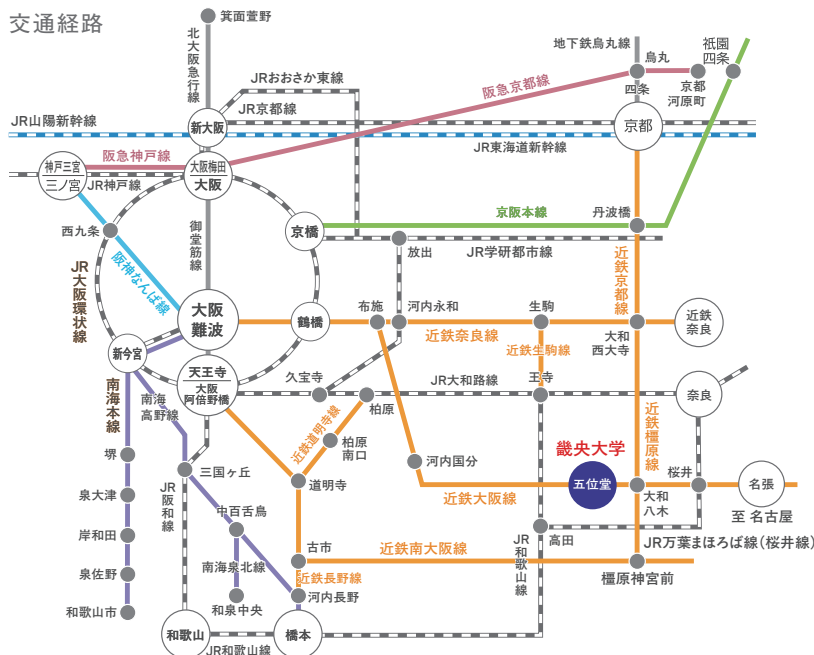
※ 一部、科目等履修や聴講ができない科目もあります。

※ 畿央大学卒業生には割引があります。詳しくはお問い合わせください。

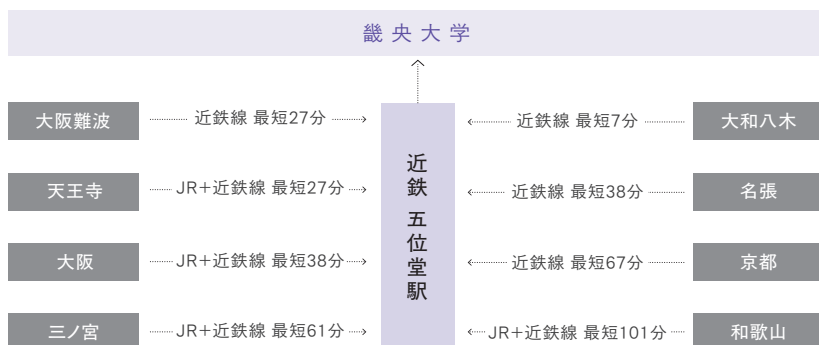
キャンパスへのアクセス

「大阪難波」「天王寺」から近鉄「五位堂」駅まで最短27分

交通経路



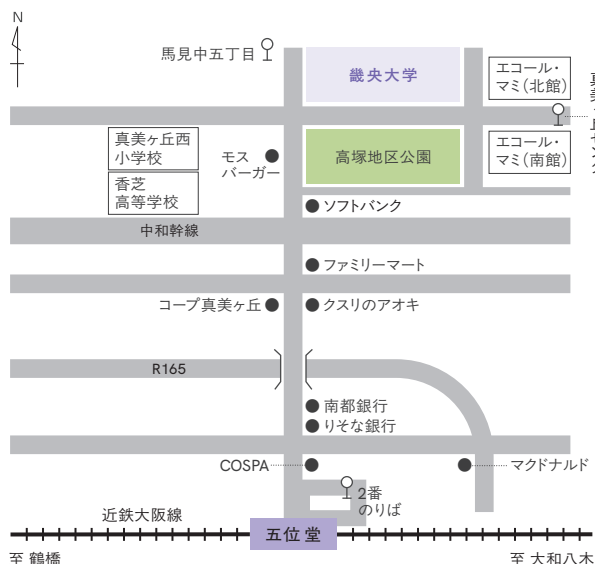
主要な駅からのルート・最短所要時間



※各駅から五位堂までの移動時間

近鉄大阪線「五位堂」駅からのアクセス

徒歩約15分またはバス約5分



畿央大学入学センター

〒635-0832 奈良県北葛城郡広陵町馬見中4-2-2
TEL 0745-54-1603 FAX 0745-54-1600

<https://www.kio.ac.jp>



大学院／学部／専攻科／別科

大 学 院 健康科学研究科／教育学研究科
健 康 科 学 部 理学療法学科／看護医療学科／健康栄養学科
健 康 工 学 部 建築デザイン学科／健康イノベーション学科
教 育 学 部 現代教育学科
専 攻 科 助産学専攻科
別 科 臨床細胞学別科

※2026年4月開設予定 設置認可申請中
(設置計画は予定であり、内容を変更することがあります。)